

工学部

Faculty of Engineering

履修要項

2025

(4月入学生)

2025年度 学 年 暦

春学期

90分×15回								年間行事等
	日	月	火	水	木	金	土	
3月	2	3	4	5	6	7	8	3/7 進級判定
	9	10	11	12	13	14	15	進級判定
	16	17	18	19	20	21	22	3/20 (春分の日)
	23	24	25	26	27	28	29	3/21 卒業式(秋学期)
	30	31	1	2	3	4	5	3/25-4/2、4/4 2025年度春学期オリエンテーション
4月	6	7	8	9	10	11	12	4/3 入学式(春学期)
	13	14	15	16	17	18	19	4/7 春学期授業開始
	20	21	22	23	24	25	26	4/29 (昭和の日) 授業日
	27	28	29	30	1	2	3	4/30、5/1、2 休講
	4	5	6	7	8	9	10	5/3 (憲法記念日)
5月	11	12	13	14	15	16	17	5/4 (みどりの日)
	18	19	20	21	22	23	24	5/5 (こどもの日)
	25	26	27	28	29	30	31	5/6 (こどもの日) 振替休日
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
6月	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	7/21 (海の日) 授業日
	13	14	15	16	17	18	19	7/25 春学期授業終了
7月	20	21	22	23	24	25	26	7/26、28 補講日
	27	28	29	30	31	1	2	7/29-8/4 春学期定期試験
	3	4	5	6	7	8	9	8/5-8/7 追試験
	10	11	12	13	14	15	16	(8/8 追試験予備日)
	17	18	19	20	21	22	23	8/11(山の日)
8月	24	25	26	27	28	29	30	8/19-8/21 再試験
	31							(8/22 再試験予備日)

秋学期

90分×15回								年間行事等
	日	月	火	水	木	金	土	
9月	31	1	2	3	4	5	6	9/3 卒業/進級判定
	7	8	9	10	11	12	13	9/10 午前卒業式(春学期)/午後入学式(秋学期)
	14	15	16	17	18	19	20	9/8-18 秋学期オリエンテーション
	21	22	23	24	25	26	27	9/15 敬老の日
	28	29	30	1	2	3	4	9/19 秋学期授業開始
10月	5	6	7	8	9	10	11	9/23 秋分の日 授業日
	12	13	14	15	16	17	18	10/13 (スポーツの日) 授業日
	19	20	21	22	23	24	25	10/24 学園祭準備のため休講
	26	27	28	29	30	31	1	10/25、10/26 学園祭(予定)
	2	3	4	5	6	7	8	11/3 (文化の日) 授業日
11月	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	11/23 (勤労感謝の日)
	30	1	2	3	4	5	6	11/24 (勤労感謝の日) 振替休日 授業日
	7	8	9	10	11	12	13	
12月	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31	1	2	3	1/1 (元日)
	4	5	6	7	8	9	10	1/9 秋学期授業終了
	11	12	13	14	15	16	17	1/12 (成人の日)
1月	18	19	20	21	22	23	24	1/13、14 補講日
	25	26	27	28	29	30	31	1/15-1/21 秋学期定期試験
	1	2	3	4	5	6	7	1/23-1/27追試験
	8	9	10	11	12	13	14	(1/28 追試験予備日)
	15	16	17	18	19	20	21	2/5-9 再試験
2月	22	23	24	25	26	27	28	(2/10 再試験予備日)
	29	30	31					2/11 (建国記念の日)
3月	1	2	3	4	5	6	7	2/23 (天皇誕生日)
	8	9	10	11	12	13	14	2/27 卒業判定
	15	16	17	18	19	20	21	3/6 進級判定
	22	23	24	25	26	27	28	3/20 (春分の日)
	29	30	31					3/22 卒業式(秋学期)

- (1)~(15) 授業日
- オリエンテーション
- 定期試験
- 再試験・追試験
- 休講

※休み期間に集中講義を行う場合があります。

- 式典
- 学園祭
- 卒業判定・進級判定
- 土・日・祝日
- 夏休み・冬休み・春休み期間

履修要項

2025

（4月入学生）

京都先端科学大学
工学部

機械電気システム工学科

Department of Mechanical and Electrical Systems Engineering

京都先端科学大学 建学の精神と3つのポリシー

<建学の精神>

本学では、未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材を輩出します。

本学では、これからの社会が目指すべき姿を構想し、その実現に向けた諸課題の解決に繋がる先端学術研究を実践します。

本学は、人材輩出・研究の実践を通じ、現在と未来の世界に先頭を切って貢献していきます。

<建学の精神の実践>

未来社会を支える人材は、多様な価値観の存在する世界で活躍します。

本学は、未来社会の姿を見通し、起こり得る新たな課題を洞観し、現在の諸課題と併せて世界に率先して解決する教育・研究活動を実践します。

世界で通用する先進性・多様性・倫理観と、専門的知識・創造的思考力・洞察力・俯瞰力・幅広い教養を兼ね備えて、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材を育てます。

<卒業認定・学位授与の方針>（ディプロマ・ポリシー）

1. 知識・理解

- 1.1 核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

- 2.1 適切な方法で収集した情報およびデータを活用できる。
- 2.2 多様な言語を用いて、他者と意思疎通を行うことができる。

3. 思考・判断・表現

- 3.1 修得した知識・技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。
- 3.2 自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

- 4.1 変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
- 4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針>（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程編成

- 1.1 教育課程として、現代リベラルアーツ科目および各学部学科専門科目を配置します。
- 1.2 現代リベラルアーツ科目では、汎用的能力の中核的な力として、未来展望力・教養、学術的な基礎力・技能、語学力・異文化理解、およびコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を修得することを目的とし、修得に必要なリベラルアーツ科目を配置します。
- 1.3 専門科目は、各々の学部学科の学修を活かした進路に則して配置され、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成します。

2. 学修方法・学修過程

（学修方法）

- 2.1 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

- 2.2.1 現代リベラルアーツ科目では、汎用的能力の修得に必要なリベラルアーツ科目を段階的に学修します。
- 2.2.2 初年次科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行います。
- 2.2.3 学術的な日本語能力・数的処理能力・IT 技能の修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を育む学修を行います。
- 2.2.4 社会人として有用な英語力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで英語科目を学修します。また、英語で学ぶ留学生は、日本社会で必要な日本語力の修得を目的として、日本語科目を段階的に学修します。
- 2.2.5 キャリア科目では、働くことの意義を理解し、キャリア形成に関する実践的手法を学修します。
- 2.2.6 4 年間を通じて、教養および課題発見力・解決力を育む未来展望科目ならびに学際コア科目でグローバル社会の諸問題を学際的に学修します。

（学修過程）

- 2.3 専門科目では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、各学部学科で設置されるコース・プログラムの下で段階的に学修しながら卒業研究を行います。

3. 学修成果の評価

- 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。
- 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

<入学受け入れの方針>（アドミッション・ポリシー）

本学は、建学の精神において、「未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材」の育成を教育の目的にしています。そのために、志望学部・学科の教育内容を理解した上で、学問の探究と実践、並びに技能の向上を目指し、グローバル社会に必要な市民教養を身につける意欲を持つ人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校等において履修する科目についての基礎的な知識や技能を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・科学、文化、社会、自然、健康などの事象に関わる学問領域について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・学問や技能に対する強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識や技能の修得のために、多様な人々と協働して取り組める。
- ・国際人としての教養を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

＜学修成果評価の方針＞（アセスメント・プラン）

1. 目的

本学のディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、及びアドミッション・ポリシー（AP）の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。

2. 機関レベル（大学全体）

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生調査などから、学修成果の達成状況を検証する。

3. 教育課程レベル（学部・学科）

学部・学科の教育課程における単位修得状況、GPA、卒業論文、資格・免許取得率などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

4. 科目レベル（授業科目）

ディプロマ・ポリシー（DP）とシラバスで明示した到達目標が適合しているかを検証する。また、成績評価基準に基づく成績評価、授業評価アンケートの結果などから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

■主なアセスメント（評価）指標

	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
機関レベル （大学）	- 入学試験 - 入学前教育 - 新入生調査 - 外部アセスメントテスト	- 留年率 - 休学率 - 退学率	- 卒業率、学位授与数 - 就職率、進学率 - 資格・免許取得率
		- 単位修得状況 - GPA - 成績分布 - 課外活動参加率 - 学外活動参加率 - 在学生調査 - 学修ポートフォリオ - 外部アセスメントテスト	- 卒業時学生調査 - 卒業後学生調査 - 学修ポートフォリオ - 外部アセスメントテスト
教育課程レベル （学部・学科）	- 入学試験 - 入学前教育 - 新入生調査 - 外部アセスメントテスト	- 留年率 - 休学率 - 退学率	- 就職率、進学率 - 資格・免許取得率 - 教員採用試験合格率 - 国家試験合格率
		- 単位修得状況 - GPA - 成績分布 - 各種 成果報告会 - 各種 コンテスト - 海外留学・研修評価 - インターンシップ評価 - 在学生調査 - 学修ポートフォリオ - 外部アセスメントテスト	- 卒業研究、卒業論文 - 卒業時学生調査 - 卒業後学生調査 - 学修ポートフォリオ - 外部アセスメントテスト
科目レベル （授業科目）	- 入学前教育 - ブレイスメントテスト	- 成績評価 - 成績分布 - 科目合格率 - 出席状況 - 授業評価アンケート - 卒業研究	—

※アセスメント（評価）の実施時期、対象、評価者、実施責任者、結果の活用方法等については別に定める。
また、上の指標は改定する場合がある。

履修要項とは

入学から卒業までの間に、学則および履修要項に定められた科目を学修し、所定の単位を修得しなければなりません。この『履修要項』には、学修の計画をたてるために必要な情報をすべて掲載しています。熟読して、卒業までの学修計画をしっかりとてましょう。この冊子は、入学時のみ配布しますので、紛失等のないよう留意してください。

京都先端科学大学 工学部 履修要項目次

京都先端科学大学 建学の精神と3つのポリシー	2	第2章 大学共通	
覚えてほしい大切なこと		インターンシップ（企業実習）プログラム	45
アドバイザー制度	6	大学コンソーシアム京都 単位互換制度	46
教員との連絡	6	放送大学 単位互換制度	47
「先端なび」～学修支援ポータル～	6	国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）	48
大学からの連絡	6	海外留学・海外研修	49
授業の出席要件について	6	キャリア・就職支援体制	51
スポーツ・ライフスキル科目	7		
（SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の受講について		学則、学費規程、学位規程、学生の懲戒に関する規程は、「先端なび」共通ドキュメント「諸規則情報」で確認してください。	
教務センター窓口	7		
第1部 履修の心得			
Ⅰ. 履修をはじめるにあたって	8		
Ⅱ. 授業科目の開設について	9		
Ⅲ. 履修登録	11		
Ⅳ. 出席管理システムについて	14		
Ⅴ. 試験	15		
Ⅵ. 成績・GPA	19		
Ⅶ. 単位授与及び認定	20		
Ⅷ. 進級要件	21		
Ⅸ. 学修者本位の学び	23		
X. 卒業と学位	24		
XI. 学籍	26		
第2部 教育課程			
工学部 教育目的と3つのポリシー	31		
第1章 機械電気システム工学科			
カリキュラム	33		
授業科目一覧	38		
カリキュラムツリー	43		

覚えてほしい大切なこと

アドバイザー制度

学生のみなさん一人ひとりに対して、専任の担任・副担任がアドバイザーとして指導を行います。担任・副担任は、みなさんの様々な相談に応じ、学修・生活上の問題解決のための助言を行います。

教員との連絡

本学では、学生が教員に相談できる時間としてオフィス・アワーを設けています。教員との連絡・相談は、授業前後やオフィス・アワーの時間を利用して行ってください。オフィス・アワーは、「先端なび」で確認できます。この他にも、教員が研究室に在室している時間は相談を受け付けます。

「先端なび」～学修支援ポータルサイト～

「先端なび」は、パソコンを使用して、以下に記載されているような様々な学生生活に関わる情報を提供します。



スマートフォンで確認する場合は、右のQRコードからご利用ください。

◇諸連絡 ◇各種案内 ◇休講・補講情報 ◇呼び出し情報 ◇学修ポートフォリオ
◇履修登録・シラバスの参照 ◇各人の授業時間割の参照 ◇出欠状況
◇課題（レポート等）の確認・提出 ◇住所等届出事項の変更 ◇面談予約 ◇就職関係 など
※「先端なび」の「メール設定」画面で自分のメールアドレスを登録しておくこと、掲示された情報がメールに配信（転送）されます。

大学からの連絡

大学から学生のみなさんへの連絡は、原則として「先端なび」を通じて行います。毎日必ず「先端なび」を確認してください。「先端なび」に掲載したものは、学生に周知されたものとして取り扱います。

授業の出席要件について

1. 授業出席要件（一部科目除く）

履修科目の単位を修得するには、授業に出席して学修を行うことが大前提となります。本学で開講されるすべての科目について、単位を授与されるには、授業回数の3分の2以上の出席が必要です（15回ある授業の場合、10回以上の出席が必要）。なお、1回の遅刻（授業開始後5分から20分の間）は、それ自体では欠席とはなりません。遅刻をどのように扱うかについては、科目担当教員が判断します。

2. 厳しい出席要件を課す科目

一部の科目については、厳しい出席要件を課しています。以下に示す科目では、単位を授与されるには、15回ある授業のうち、12回以上（30回ある授業の場合は、24回以上）の出席が必要です。

単位の授与にあたって、12/15回以上あるいは24/30回以上の出席が必要な科目

イングリッシュ・コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

エンジニアリング・イングリッシュⅠ・Ⅱ

プラクティカル・イングリッシュⅠ・Ⅱ

インテンシブ・リーディング

インテンシブ・リスニング

プレゼンテーション・ディスカッションⅠ・Ⅱ

アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ

SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

◇授業を欠席する場合の留意点

- ① 本学に「公欠」はありません。
- ② 教務センターから科目担当教員への取り次ぎは行いません。
- ③ 障がいを持つ学生に対して、合理的配慮に基づいて学修支援を行う場合は、個別の対応を行います。

スポーツ・ライフスキル科目（SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の受講について

スポーツ・ライフスキル科目については、京都亀岡キャンパスで受講します（看護学科・言語聴覚学科除く）。また、スポーツ・ライフスキル科目を京都亀岡キャンパスで受講する日は、他の現代リベラルアーツ科目の一部も京都亀岡キャンパスで開講します。授業時間に合わせてキャンパス間バスを利用してください。

※このバスは受講人数に合わせて運行しています。乗車マナーを守り、後部座席から着席してください。

教務センター窓口

履修登録をはじめ授業に関して分からない事があれば、教務センターへ問い合わせてください。

《京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス 窓口取扱時間》

月～金

8:30～17:00

※土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるとにあって

大学は、「学生が自主的に学ぶところ」です。つまり、大学は一方的に教えられる場所ではなく、自ら考え、自らの意見を形成していく場所です。

4年間を通じての学修プランを立て、卒業時には「この点については特に学修した」と言えるようになることが必要です。学修は、自分のためにするものです。また、文章を書く力、議論をする力、深く考え学修する力、新しい発想を創造する力等々は、社会に出てからも必要となる非常に大切な力であり、大学の授業を通じてこれらの力を向上させる努力が大切です。

1. 単位制について

(1) 単位制

大学は、単位制をとっています。単位制とは、所定の授業科目を一定の基準に従い履修し、科目ごとに定められた単位を修得する制度です。

(2) 単位

単位とは、学修に要する時間を表す基準です。単位の修得はそれぞれの科目について所定の時間を履修し、試験その他大学が定める適切な方法により合格と判定され初めて単位を修得できます。この単位の集積をもって卒業に必要な単位数を満たしていくことになります。

おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で、大学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとしています。

- ① 講義・演習科目は、15～30 時間の授業時間をもって 1 単位とします。

(例) 講義科目の単位算出

90 分の授業は、2 時間とみなして計算しますので、2 時間×15 回=30 時間の授業時間数となります。

15 時間の授業時間をもって 1 単位とみなす科目では、30 時間で「2 単位」になります。

- ② 実験、実習、実技科目は、30～45 時間の実験、実習又は実技をもって 1 単位とします。

- ③ 自主的学習時間と単位の関係

1 単位の内容は 45 時間の学修を基準としています。

30 時間の授業をもって 1 単位とする場合には、1 単位について 15 時間の自主的学習が必要です。

15 時間の授業をもって 1 単位とする場合には、1 単位について 30 時間の自主的学習が必要です。

(例①) 2 単位 15 回授業の場合



(例②) 1 単位 15 回授業の場合



(3) 卒業の認定

学則で規定されている卒業に必要な単位（要卒単位）を修得し、かつ所定年数以上在学した場合に卒業となります（p.24「X. 卒業と学位」を参照）。なお、授業科目には要卒単位として算入される科目と、算入されない科目（資格課程等の取得を目的として修得する科目など）があります。

Ⅱ. 授業科目の開設について

1. 受講時のマナー

大学の授業において守るべき最低限のマナーには次のようなものがあります。みなさん自身でより良い受講環境をつくりましょう。

- ・私語をしない。
- ・携帯電話・スマートフォン・音楽プレーヤー等は、指示がない限り使用しない。
- ・途中入退室をしない（手洗いにいく場合や体調不良・通院などの理由で途中入退室が必要な場合は科目担当教員に申し出ること）。
- ・原則として、飲食をしない。
- ・教室内では帽子を取る（事情があって帽子着用の必要な学生は、事前に科目担当教員に申し出ること）。
- ・学生証の貸し借りをしない（発見した場合は、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づき対処します）。

マナーを守らない学生には、科目担当教員がその都度注意しますが、改善が見られない場合には、退室を命じる、単位を授与しないなど、厳しく対処します。

2. セメスター制

セメスター制とは、1つの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる制度です。1つの授業を1年間通じて実施する通年制における春学期・秋学期の区分とは異なります。入学時期ごとの年次・学期（セメスター）の関係は、次の通りです。

（春学期入学の場合）

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

（秋学期入学の場合）

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期
セメスター	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

3. 授業時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

4. 試験時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:00～10:00	10:40～11:40	13:00～14:00	14:40～15:40	16:20～17:20

※一部の学部において、試験時間 90 分の科目があります。対象科目は定期試験時間割で確認してください。

5. 休講

- （1）授業は、休講することがあります。休講連絡は「先端ナビ」で行います。
- （2）休講の掲示がなく、授業開始後 30 分以上経過しても科目担当教員が入室しない場合は、教務センターに問い合わせて指示を受けてください。

6. 気象警報発令、あるいは公共交通機関に遅延等があった場合の授業および試験の取り扱い

(1) 気象警報が発令された場合

京都府南部京都・亀岡（京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町のいずれか）に「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」のいずれかが発令された場合の対応は、以下のとおりとなります（両キャンパス対象）。

警報解除時刻	授業および試験開始講時
7時までに解除	1 講時から実施
10 時までに解除	3 講時から実施
10 時を過ぎて解除	全講時休講

（注）「大雨警報」「洪水警報」「大雪警報」は、原則として、休講の対象にはなりません。

ただし、特例的に休講にする場合があります。その場合は、本学 HP および「先端なび」に掲示を行います。

※ 授業開始後に対象警報が発令された場合は、原則として、以降の授業は休講となります。

※ 「特別警報」が発表されたときは、ただちに命を守る行動をとってください。当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の「（2）公共交通機関が遅延した場合」に準じて対応してください。

(2) 公共交通機関が遅延した場合

当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の対応をとってください。

- ① 授業（授業内試験を含む）に出席できなかった場合
当日中に科目担当教員に申し出て、指示に従うこと。
- ② 期末定期試験に出席できなかった場合
追試験の対象となります。
詳細は p17 「2. 追試験」参照のこと。

7. 開講キャンパス

本学で開講されている科目は、京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパスのどちらかで開講されています。キャンパス間の移動は、キャンパス間バス、もしくは公共交通機関を利用してください。キャンパス間移動をする際は、移動時間を十分考慮しましょう。

Ⅲ. 履修登録

1. 履修登録

履修登録は、セメスターごとに実施しており、セメスターごとの履修登録が必要です。正しく履修登録していない科目は、授業に出席したとしても、単位を修得することができません。

履修登録完了後、「先端ナビ」で正しく登録されているか確認してください。

2. 履修登録に関する注意事項

履修登録を行う際には、以下の点に注意をしてください。

履修登録は、すべて自己責任において行ってください。

- ・必修科目は他の科目より優先して登録してください。
- ・科目ごとの履修要件を守ってください。
- ・同一授業時間に、2科目以上を登録することはできません（全授業回をオンデマンド型のオンライン授業で実施する遠隔科目は除く）。
- ・単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- ・履修登録制限単位数を超えて登録することはできません。

3. 履修登録制限（CAP 制）

学修の質および学修時間の確保のため、1セメスター（または年間）で履修できる科目の上限単位数を設けています。各学科で定められた制限単位数を超過して履修登録することはできません。

※履修登録制限に、次の科目は含まれません。

該当科目
海外研修ⅠA・ⅠB・ⅠC・Ⅱ
企業実習Ⅰ・ⅡA・ⅡB・Ⅲ
インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
フィールド・スタディA・B・C

4. 遠隔科目の履修について

大学設置基準に基づき、卒業要件に含めることができる遠隔科目の単位数は60単位を上限とします。なお、60単位の上限は、あくまで要卒単位として算入できる遠隔科目の単位数の上限なので、60単位を超えて遠隔科目の履修をすること自体は可能です。また、遠隔科目であっても、要卒単位に算入されない科目については、60単位上限には含まれません。要卒単位数および遠隔科目の単位数は、学生自らの責任において自己管理すべきものです。60単位の上限をしっかりと意識したうえで、上限を超えないように単位数を計算し、履修登録を行ってください。

遠隔科目に分類される授業は、「先端ナビ」共通>ドキュメント>遠隔科目一覧」で確認してください。また、シラバスにおいても、授業区分で遠隔科目に分類される授業を確認できますので、単位数の計算の際に参考にしてください。

[本学における対面/遠隔の授業区分]

遠隔授業の時間数が全授業時間数の半数を超えない場合は対面科目、超える場合は遠隔科目です。

本学での区分	授業形態の詳細	60 単位上限の適用
対面科目	対面授業のみ	×
	対面授業≧遠隔授業となる授業 (例：授業回数 15 回の内 1～7 回で遠隔を取り入れた授業)	×
遠隔科目	遠隔授業>対面授業となる授業 (例：授業回数 15 回の内 8～14 回で遠隔を取り入れた授業)	○
	遠隔授業のみ	○

※遠隔授業：ライブ中継型、またはオンデマンド型のオンライン授業。

5. 科目の区分／履修登録の形態

(1) 科目の区分

- ・必修科目：卒業要件（もしくは進級要件）として必ず単位を修得しなければならない科目。単位が修得できなかった場合、当該科目を翌セメスター以降に再履修しなければなりません。
- ・選択科目：自分の興味や進路に沿って選択して履修する科目。卒業要件で指定された単位数以上を修得しなければなりません。

(2) 履修登録の形態 ※詳細は、各学部（各学科）のオリエンテーションで確認してください。

①一括登録科目 <登録作業：教務センター>

受講があらかじめ決められており、教務センターが一括で履修登録する科目。主にクラス分け等の理由により、登録クラスが決められている必修科目が該当します。

②抽選登録科目 <登録作業：学生>

受講生数に定員のある科目（他学部受講科目*含む）。定員以上の受講希望者があった場合、選抜条件にしたがって受講者を決定します。受講について成績等の条件が課されることがあります。

抽選登録の手続きを経て受講が許可されれば、必ず受講しなければなりません。（受講辞退不可）

※ 他学部受講科目とは他学部における専門科目のうち、広く受講が許可された科目です。

③通常の履修登録科目 <登録作業：学生>

上記①②以外の科目。

6. 履修登録科目の追加・取り消し

上記③「通常の履修登録科目」に限って、各学期の第2週目まで（学年暦①～②の期間）、学生自身で、履修登録の追加・取り消しをすることができます。ただし、授業開始後に履修登録の追加をした場合、登録前の期間は欠席扱いとなります。また、同一授業時間に2科目以上を登録している場合、その科目は全て欠席扱いとなります（全授業回をオンデマンド型のオンライン授業で実施する遠隔科目は除く）。卒業に必要な単位数等を十分考慮し、履修登録科目の追加・取り消しを行ってください。

※インターンシップ（企業実習）プログラム（インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の取り消しについては、P.45を参照してください。

※履修登録科目の追加・取り消しにより、履修登録科目修正の必要が生じた場合にのみ、各学期の第3週目に（学年暦③の期間）に、教務センターにて、履修登録科目の追加・取り消しをすることができます。

7. 科目ナンバリング

「科目ナンバー」は、「第2部」各学科の授業科目一覧に掲載しています。履修科目を選択する際に活用してください。

(1) 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を附番し分類することで、学修の段階や順序、授業科目の関係性等を表し、学内外に教育課程の体系性を明示する仕組みです。このナンバリングは、履修登録をする際、適切な授業科目を選択する目安ともなります。

(同じ科目名の科目であっても、学科によって異なる科目ナンバーを付している場合があります。)

(2) 科目ナンバリングの構成

科目ナンバーは、以下のような8桁の英数字から構成されています。

(1桁目) (2桁目) (3桁目) (4桁目) (5桁目) (6桁目) (7～8桁目)

D F 1 1 1 2 01

(大学共通/未来展望/入門レベル/講義形式/DP1.1関連/2単位科目/通し番号)

[科目ナンバー一覧]

(1桁目) 開講学部・学科等コード		(2桁目) 科目区分コード		(3桁目) レベルコード (授業科目の難易度、 履修に選んだ学年等)		(4桁目) 授業形態コード		(5桁目) 学位授与の方針 (授業科目に最も関連する ディプロマ・ポリシー)		(6桁目) 単位数	(7～8桁目) 通し番号	
大学共通		D	現代 リベラル アーツ 科目	未来展望科目	F	入門～基礎	1	講義	1	DP 1.1 (知識・理解)	1	
				学際コア科目	C	基礎～専門	2	講義・演習	2	DP 2.1 (技能)	2	
				初年次科目	U	専門～応用	3	演習	3	DP 2.2 (技能)	3	
				アカデミック・リテラシー科目	A	応用～発展	4	実験・実習・実技	4	DP 3.1 (思考・判断・表現)	4	
				英語科目	E			学外実習	5	DP 3.2 (思考・判断・表現)	5	
				日本語科目	J			卒業研究	6	DP 4.1 (関心・意欲・態度)	6	
				第二外国語科目	L			その他	9	DP 4.2 (関心・意欲・態度)	7	
				海外研修	K							
				スポーツ・ライフスキル科目	S							
				キャリア教育科目	R							
経済 経営	経済学科 経営学科	E B	専門科目	フィールド・スタディ科目	D							
				入門科目	A							
人文	歴史文化学科 心理学科	H P	専門科目	キャリア科目	R							
				法学科目	L							
環境 バイオ	生物環境科学科 応用生命科学科	C V	専門科目	展開科目	I							
				演習科目	G							
健康 医療	看護学科 言語聴覚学科	N R	専門科目	基礎科目	B							
				展開科目	I							
健康 医療	健康スポーツ学科	T	専門科目	基礎科目	B							
				応用科目	O							
工	機械電気システム工学科	M	現代 リベラル アーツ 科目	基礎科目	B							
				応用科目	O							
				実習科目	P							
				実技科目	Q							
				演習科目	G							
			専門科目	初年次科目 (工学部)	U							
				英語科目 (工学部)	E							
				日本語科目 (工学部)	J							
				キャリア教育科目 (工学部)	R							
				ロジカル思考基礎科目 (工学部)	T							
機械電気システム工学科	専門科目	専門共通科目	C									
		専門科目	M									
		実験・実習科目	X									
		総合演習科目	G									

Ⅳ. 出席管理システムについて

本学では、出席管理システムを導入しています。毎講時、授業が始まる際に教室に設置されているタッチパネル式の出席管理システム端末に学生証をかざすと、自動的に出席状況が登録されます。

必ず学生証を携帯し、各授業の際にかざしてください。これを行わないと、たとえ出席していても欠席の扱いとなります。学生みなさんの出席・遅刻の情報は「先端ナビ」で一元管理されます。科目担当教員は、このシステムに登録された出欠情報に基づいて出欠の確認を行うことを原則としますが、担当教員によっては授業終了時の小テスト提出など他の要件を課す場合もあります。

1. 出席・遅刻・欠席の扱いについて

授業開始の8分前から、出席データの読み取りが可能となります。

授業開始から5分後に、遅刻の扱いへ切り替わります。

授業開始から20分以降は、欠席として扱います。

※1回の遅刻（授業開始後5分から20分の間）は、それ自体では欠席とはなりません。遅刻をどのように扱うかについては、科目担当教員が判断します。

2. 出席の不正行為について

学生証の貸し借りは出席の不正行為とみなし、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づき対処します。

3. 出席票の交付について

学生証紛失による再発行手続中や、学生証を忘れた場合は、授業開始前に教務センターで「出席票」の交付を受け、授業で提出してください。

なお、「出席票」交付の際には、身分証明書が必要です。

V. 試験

1. 定期試験

一部の授業を除き、原則として学期ごとに定期試験が行われます。定期試験は、日頃の学修の到達点を確認する重要なものです。また、本学では定期試験を厳正に執行しています。

定期試験の種類には、主として次の3種類があります。なお、複数の方法を組み合わせて実施される場合もあります。

- ①筆記試験
- ②レポート試験
- ③実技試験

(1) 定期試験の時間

① 試験時間割

定期試験の時間割は、原則として試験開始の2週間前に「先端なび」上で発表します。

② 試験時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:00～10:00	10:40～11:40	13:00～14:00	14:40～15:40	16:20～17:20

※一部の学部において、試験時間 90 分の科目があります。対象科目は定期試験時間割で確認してください。

(2) 試験に関する注意事項

[筆記試験]

- ① 試験会場には、学生証を必ず持参すること。
- ② 学生証を忘れた場合は、教務センターで「受験許可証」の交付を受けること。
- ③ 指示された試験会場で受験すること。
- ④ 試験開始 15 分前には、試験会場に入室していること。
- ⑤ 試験開始時刻から 20 分以上遅刻した場合は受験資格を失います。
- ⑥ 試験開始後 30 分以上（試験時間が 90 分の科目は 45 分以上）経過し監督者が認めた場合には、途中退出することができます。

◇筆記試験の受験上の注意事項

- ① 試験会場では、試験監督者の指示・注意に従うこと。
- ② 学生証の「顔写真」は、試験監督者によく見えるように机の上に置くこと。
- ③ スマートフォン等の電子機器類は、試験中は必ず電源を切り、カバンの中に入れること。
- ④ 持込許可品以外の物品は、カバンの中に入れること。
- ⑤ 不正と疑われる行為を発見した場合には、次頁「(3) 不正行為」に記された内容で処分します。
- ⑥ 答案を無効として取り扱う場合
 - ・答案が無記名の場合（学籍番号・氏名、どちらか一方が記入されていない場合でも無効となります）
 - ・指定された場所に答案を提出していない場合

[レポート試験]

- ① レポートの課題
 - 原則として、「先端なび」に掲示します。ただし、授業中に口頭連絡で提示される場合もあります。
- ② 提出期限について
 - 提出期限については、科目ごとに担当教員が指定します。
- ③ 提出方法
 - 原則として、「先端なび」上で提出。

◇レポート提出に関する注意事項

授業中に提出するように指示された場合は、授業中に提出してください。授業に遅刻・欠席し提出できない場合も、教務センターでは一切受け付けていません。提出期限に余裕を持って提出してください。なお、教員の電話番号・住所等の公開はしていません。

◇剽窃行為について

授業で課せられるレポートや論文を作成する際には、書籍等の著作物や Web サイトで他人の考えを参考にしたり、データを分析しながら、自分の考えを叙述することが求められます。著作物や Web サイトの記載をそのまま無断で引用する剽窃（ひょうせつ）行為（コピー＆ペースト等）は、社会的に許されない行為であり、他者の著作権を侵害する違法な行為となる場合もあります。剽窃行為が発見された場合は、本学として以下の通り対処します。

[剽窃行為についての本学の対応]

- ① レポート等の提出物を評価する教員が剽窃行為であると判断した場合は、当該提出物の評価は0点とする。
- ② 他の学生が作成したレポート等を自分が作成したかのように記述してレポート等を提出した場合、剽窃行為を行った学生だけでなく、同行を行った学生に自分のレポート等を見せた学生についても、提出物の評価は0点とする。

[生成系 AI についての本学の対応]

本学では、生成系 AI が提供する文章や情報を、大学で履修する授業の学修成果として提出する課題やレポートなどの成果物に、そのまま利用することは認めていません。本学に提出する成果物は自分で書いた文章で構成され、他所の情報を引用する場合は必ず正確に出典を表記することを求めています。提出された成果物において生成系 AI の利用が発覚した場合は、剽窃行為とみなすなど厳正に対処します。

(3) 不正行為

次の行為が、不正行為にあたります。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 代理人による受験、または受験を他人に依頼した場合② 持込許可品以外の物品を持ち込み、またそれらを参照した場合③ 筆記用具や持込許可品などを貸借した場合（貸した側、借りた側双方が処分されます）④ 机等に不正な書き込みをして受験した場合⑤ 解答用紙の交換、筆写を行った場合⑥ 口頭等により不正な連絡を行った場合⑦ 解答用紙を持ち帰った場合⑧ 監督者の指示に従わなかった場合 |
|---|

定期試験・レポート試験中に学生が不正行為通告書を提示された場合は、試験終了後に事情聴取を受けることになります。その後、調査委員会が不正行為と認定した場合は、当該学生は受験資格を喪失し、自宅待機を命じられます。

[不正行為に対する処分]

学生が不正行為を行った場合は、大学による厳正な処分を受けます。成績評価については、不正行為を行った科目だけでなく、そのセメスターに履修したすべての科目が「不合格（F）/素点:0点」とされ、単位が授与されません（ただし、学部学科が指定した学外実習科目等は除く）。さらに懲戒処分として、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づいて、厳正に対処します。

(注) 「大学コンソーシアム京都」、「放送大学」開設科目において不正行為を行った場合

他大学・短期大学等が開設する科目において不正行為があった場合は、科目を開設する大学・短期大学等が決定した処分に加え、本学においても厳正な処分を行います。

2. 追試験

追試験は、下記表の事由により定期試験を欠席し、所定の手続きにより許可された場合にのみ、受験することができます。願い出により実施される試験です。

(1) 受験資格

追試験を申請できるのは、定期試験を次の事由により受験できなかった場合で、かつ証明書が入手できる場合に限られます。

	事由	証明書	備考
1	学校保健安全法施行規則 18 条で定める感染症に罹患し、大学が出席停止を求めた場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書 例：インフルエンザの場合、出席には発症から 5 日、解熱から 2 日経過していることが必要
2	公共交通機関の連休・遅延	連休・遅延証明書	WEB からダウンロードした遅延証明書を提出する場合、各公共交通機関 HP に掲載されているリアルタイムの交通状況の画面（スクリーンショットしたもの）も提出が必要
3	3 親等以内の慶事・忌引き	案内状、招待状、会葬礼状、葬儀証明書など	
4	自己の責めに帰さない不慮の事故または災害	事故証明書など	診断書の提出を求める場合もある。車、バイク、自転車での通学途上での故障・交通渋滞による遅延は含まない。
5	課外活動	公式大会要項など	体育連合協議会、文化連合協議会所属団体の内、部として認められている団体に限る。参加者名簿を添付すること。
6	教員免許取得にかかる教育実習・介護等体験および博物館実習	教務センターの証明書	
7	資格試験・就職試験	受験証明書など	
8	単位互換科目（大学コンソーシアム京都・放送大学）の授業・試験と重複する場合	受講・受験証明書	
9	1 以外の病気・怪我で医師が加療を指示した場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書
10	その他大学が正当と認めた事由	大学が指示する証明書	補講との重複など

(2) 申請手続き

当該科目の試験終了後 2 日以内（試験当日・土日祝を含まない）に、追試験申請書に所定の証明書を添えて、教務センター窓口に速やかに提出してください。

※ 指定された追試験日時に受験できなかった場合は、受験資格を失います。

3. 再試験

試験（追試験含む）の結果「不合格」と判定された場合、特定の科目（再試験対象科目）については、再試験を受けることができます。ただし再試験に対する追試験は実施しません。再試験で合格となった場合の成績評価はすべて（60点「C」）となります。また再試験で「不合格」となった科目は、以後のセメスターに授業を再履修することになります。

（1）受験資格

再試験実施科目の科目担当教員が認めた場合に受験できます。

（2）申請手続き

再試験の受験対象者には、「先端なび」を通じて教務センターより連絡します。再試験の受験を希望する場合は、試験前に配布される「実施要領」に従い申請してください。再試験受験には、1科目につき受験料3,000円が必要です。

※ 指定された再試験日時に受験しない場合は、当該科目は「不合格（F）」となります。

※ 「1.定期試験」「2.追試験」「3.再試験」以外に、科目担当教員の判断で、適宜授業内に試験が実施される場合があります。

※ 「2.追試験」「3.再試験」における不正行為の扱いは、「1.定期試験」に準じます。

VI. 成績・GPA

1. 成績評価

成績評価は、シラバスに記載されている成績評価方法に従って行われます。合格した科目は、取り消したり、再度履修登録したりすることはできません。

2. 成績

	評価		成績表への記載	成績証明書への記載
	記号	素点		
合格	S	100～90	記号表記と 素点表記	記号表記
	A	89～80		
	B	79～70		
	C	69～60		
	N	N	記号表記	
不合格	F	59～0	記号表記と素点表記	表記なし

※ 記号「N」は「認定」を表します。単位互換等で認定された科目は、「N」と記載されます。

3. 成績発表

各学期の成績は、春学期は9月上旬頃、秋学期は3月中旬頃に、「先端ナビ」で発表します。

4. GPA

本学では、GPA（Grade Point Average）を導入しています。GPAとは大学の成績評価を数値化したもので、学力を測る指標となっています。GPAは、「先端ナビ」で確認できます。

※GPA値は、学内における奨学金審査等で用いられています。成績基準としてGPA値が各種奨学金やその他の申請等の条件となる場合には、別途募集要項等に記載します。

（1）本学のGPA換算方法

（計算式）

$$\text{GPA} = \frac{(4 \text{ ポイント} \times \text{Sの科目の単位数合計}) + (3 \text{ ポイント} \times \text{Aの科目の単位数合計}) + (2 \text{ ポイント} \times \text{Bの科目の単位数合計}) + (1 \text{ ポイント} \times \text{Cの科目の単位数合計}) + (0 \text{ ポイント} \times \text{Fの科目の単位数合計})}{\text{総単位数（履修登録科目の単位数）}}$$

GPA換算時の対象科目は、履修登録をしたすべての科目となります。不合格となった科目も対象となり、分母に加算されます。また、再履修した科目はすべての成績が対象となり、分母には延べ単位数が加算されます。

※卒業要件に算入しない資格科目は除きます。

※大学コンソーシアム京都単位互換科目、留学によって修得した認定科目、外部試験公式スコアにより単位認定された科目など（評価が「N」と表される科目）は除きます。

5. 成績表記調査

シラバスに記載された評価基準、および授業の中での評価基準の説明を十分に理解した上で、明らかに自分の成績が誤りであると考えられ、それを具体的に説明できる場合、成績表記調査を申し出ることができます。

申請方法：申請方法および申請期間については、「先端ナビ」よりお知らせします。

受 付：成績表記調査の申請内容を確認して、明らかに成績表記に誤りがあると思われる場合は、受け付けます。

回 答：「先端ナビ」より回答します。

注 意：成績表記が誤りであるケースは極めて少なく、学生本人が評価方法や授業中の説明を理解していないために、成績表記が誤りであると思い込んでいるケースが大半です。事前に十分に検討してください。

Ⅶ. 単位授与及び認定

1. 単位授与

授業科目を履修し、原則として春学期末または秋学期末に行われる試験に合格した者には、所定の単位が与えられます。

試験の方法は、p.15「Ⅴ.試験」に示した筆記試験・レポート試験・実技試験などがありますが、科目によっては通常の授業時の成績を試験成績とすることがあります。

出席日数が不足している、あるいは途中で受講を放棄した場合は、その科目の単位は授与されません。

2. 単位授与の時期

単位授与は、原則として9月・3月（各学期終了後）に行います。

単位授与されるには、単位授与時期に、学籍状態が「在学」または「留学」中である必要があります。（「休学」中の場合は、単位授与されません）。

3. 他大学等で修得した単位の認定

教育上有益と認めた場合は、海外留学や国内留学、単位互換制度等を履修することができます。修得した単位は、60単位を限度とし学部教授会の審議を経て卒業認定単位として認めることがあります。なお、上限60単位とは、個々の留学プログラムや単位互換制度ごとではなく、他大学等で修得した総単位数の上限となります。また、各学期の履修登録制限単位数を超えて認定することは出来ませんので、注意してください。

Ⅷ. 進級要件

1. 進級要件

進級するためには、各学年において学科で定めた要件を満たすことが必要です。

【経済学科、経営学科、心理学科、歴史文化学科、健康スポーツ学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※	—	64 単位以上	—
単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 必修科目	—	18 単位以上	—
単位修得が必要な 専門科目	—	経済学科：マクロ経済入門 ミクロ経済入門、 経営学科：経営戦略入門、 会計学入門 心理学科： 「臨床心理学基礎演習」「社会・産業基礎演習」「心理学研究法」より 4 単位以上	—
在学期間 (休学期間は除く)	1年次に1年間に在学していること。	2年次進級後に1年間に在学していること。	3年次進級後に1年間に在学していること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

【生物環境科学科、応用生命科学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※	—	—	96 単位以上
単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 必修科目	—	—	25 単位以上
単位修得が必要な 専門科目	—	—	—
在学期間 (休学期間は除く)	1年次に1年間に在学していること。	2年次進級後に1年間に在学していること。	3年次進級後に1年間に在学していること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

【看護学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」	—	—	22 単位以上（卒業要件）
単位修得が必要な 専門科目	—	2 年次終了時までに関講した必修科目すべて	3 年次終了時までに関講した必修科目すべて
在学期間 (休学期間は除く)	1年次に1年間に在学していること。	2年次進級後に1年間に在学していること。	3年次進級後に1年間に在学していること。

【言語聴覚学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」	—	—	29 単位以上（卒業要件）
単位修得が必要な 専門科目	—	2 年次終了時までに関講 した必修科目すべて	3 年次終了時までに関講 した必修科目すべて
在学期間 （休学期間は除く）	1 年次に 1 年間に学してい ること。	2 年次進級後に 1 年間に学 していること。	3 年次進級後に 1 年間に学 していること。

【機械電気システム工学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※	—	—	88 単位以上
単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 必修科目	微分積分と線形代数Ⅰ	英語科目より必修 10 単位 を含む 18 単位以上	—
単位修得が必要な 専門科目	物理学Ⅰ	—	キーストーンプロジェクト
在学期間 （休学期間は除く）	1 年次に 1 年間に学してい ること。	2 年次進級後に 1 年間に学 していること。	3 年次進級後に 1 年間に学 していること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

Ⅸ. 学修者本位の学び

1. 学修者本位の学び

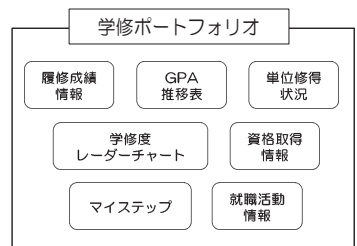
本学の教育課程（カリキュラム）によって身につく力は、現代のリベラルアーツとしての「グローバル社会を生き抜く力」です。大学・学部・学科は、それぞれ「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）」として、学生の卒業要件を定めています（履修要項 p.2、および各学部・学科ページ参照）。

また、文部科学省の指針により、高等教育のあり方は、大学が学生に対して「何を教えるか」ではなく、学生自身が目指す姿になるために「何を学び、身に付けるのか」に変わってきました。この、学生が自らの学修の成果を実感しながら必要な能力を身に付けていくことを「学修者本位の学び」と呼びます。

「学修者本位の学び」を効率よく進めるツールとして、先端なびには「学修ポートフォリオ」と「マイステップ」が用意されています。

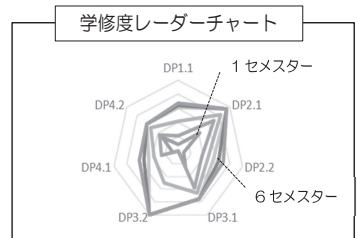
2. 学修ポートフォリオ

学修ポートフォリオは、学生一人ひとりの学修情報（履修成績情報、資格、GPA 推移、単位修得状況）から就職活動情報までを一元的に確認できるツールです。そのなかには「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）」への到達度を可視化した「学修度レーダーチャート」があります。また、これは学修の自己管理ツール「マイステップ」とも連携しています。学修ポートフォリオを上手に活用することにより、自分自身の成長（学修進捗度）を GPA だけではなく、より広い視点から確認してください。



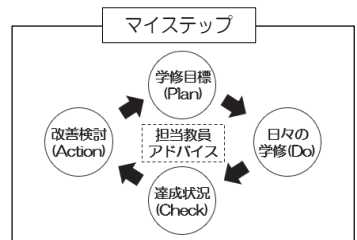
3. 学修度レーダーチャート

各授業科目は「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）」の7項目に割り付けられています。学修度レーダーチャートとは、学生のDPに対する伸長状況を、セメスターごとに修得した科目の成績も考慮して算出し、可視化したものです。上級生になるにつれ、また成績上位になるにつれ、相対的にレーダーチャートの面積は大きくなります。各DPに対して伸びている点、欠けている点がわかりますので、自分の学修到達度を把握するとともに、翌セメスターの履修登録時の検討材料にしてください。



4. マイステップ（学修の自己管理ツール）

「学修者本位の学び」を進めるには、学生自身が「学修目標を立てる（Plan）」「日々の学修を行う（Do）」「達成状況をチェックする（Check）」「改善検討を行う（Action）」、翌セメスターにはまた「新しい学修目標を立てる（Plan）」というPDCAサイクルを回す必要があります。マイステップは、セメスターごとに「アセスメントテスト」等の結果を参考に学修目標・達成状況・改善ポイント等を入力することで、学修の自己管理ができるツールになっています。学修目標設定時と成績発表時には、担当教員から面談等を通して入力内容に対するアドバイスがフィードバックされますので、それらも参考にしながら、自身が目指す姿になるための取り組みを、主体的に進めてください。



X. 卒業と学位

1. 卒業および学位

卒業するためには、大学が定める教育課程に従って学修し、次の卒業要件をすべて満たすことが必要です。

(1) 所定在学年数

8セメスター以上在学し、各学年1年以上在学していること。休学期間は在学年数に含みません。

(2) 所定単位の修得

卒業に必要な単位数（要卒単位数）・必修条件等を満たしていること。

(3) 卒業判定

所定在学年数の要件を満たすことになる在学生を対象に卒業判定を行います。この卒業判定に合格した場合に、卒業が認められます。

2. 学位

学部名	学科名	学位
経済経営学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
人文学部	心理学科	学士（人文）
	歴史文化学科	学士（人文）
バイオ環境学部	生物環境科学科	学士（バイオ環境）
	応用生命科学科	学士（バイオ環境）
健康医療学部	看護学科	学士（看護学）
	言語聴覚学科	学士（言語聴覚学）
	健康スポーツ学科	学士（健康スポーツ学）
工学部	機械電気システム工学科	学士（工学）

3. 卒業見込

(1) 卒業見込証明書とは

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。卒業見込は、卒業を保証するものではありません。

(2) 証明書発行基準

卒業見込証明書の発行基準は次頁のとおりです。

【卒業見込証明書発行基準】

以下の表に記載されている要件に基づき、卒業見込証明書が発行されます。

所属学部	所属学科	卒業に必要な 単位数	第7セメスター	第8セメスター ※第8セメスター開始時に以 下の修得単位数（要卒単位 数）を満たしていること。
経済経営学部	経済学科	124 単位	3年次終了時に、卒業 見込の有無についてお 知らせします。	100 単位以上
	経営学科			
人文学部	心理学科	124 単位		100 単位以上
	歴史文化学科			
バイオ環境学部	生物環境科学科	128 単位	4年次に在籍している こと	108 単位以上
	応用生命科学科			
健康医療学部	看護学科	126 単位		121 単位以上
	言語聴覚学科			120 単位以上
	健康スポーツ学科	124 単位	3年次終了時に、卒業 見込の有無についてお 知らせします。	100 単位以上
工学部	機械電気システム工学科	128 単位	4年次に在籍している こと	104 単位以上

※第7セメスターで卒業見込証明書を発行されていた場合でも、成績次第で第8セメスターでは発行されない場合もあります。

XI. 学籍

学籍は、入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって喪失します。学籍の種類は、在籍（在学・休学・留学）、卒業、除籍、退学などがあります。

1. 学籍番号

入学を許可した者に学籍番号を付与します。学籍番号は、原則として在籍中も卒業後も変わりません。

2. 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明する大切なものです。以下の場合に提示が必要になりますので、常に携帯してください。

- ・定期試験の受験
- ・各種証明書の交付
- ・出席管理システム（p.14「Ⅳ. 出席管理システムについて」参照）
- ・本学教職員等から提示を求められたとき

※学生証の紛失・盗難にあった場合は、教務センターに届け出てください。

※学生証の有効期間は、4 年間です。

3. 在籍について

在籍には、在学、休学、留学の3つがあります。

(1) 休学

病気その他の事由により継続して就学できない見込みの場合は、休学を願い出ることができます。

① 休学の願い出

「休学願」に事由を明記して、保証人との連署で願い出てください（病気等で休学する場合は診断書を添付）。感染症、その他の病気のために就学不相当と認められた場合は、学部長が休学を命ずることがあります。

② 休学期間

休学期間はセメスター単位とし、継続して2年を超えることはできません。ただし、特別な理由がある場合（例えば、留学生で母国の兵役により、休学期間が2年を超える場合）は、引き続き1年以内に限り延長することができます。休学の期間は、入学時から通算して4年を超えることはできません。

③ 休学中の学費

休学中は学費の納付を免除します。ただし、休学期間中はセメスターごとに在籍料（10,000 円）を納付しなければなりません。

※当該学期の学費を既に納付している場合は在籍料の納付を免除しますが、学費の返還はできません。

(2) 留学

本学が提供する留学プログラムで留学する場合、学部の教授会で審議します。留学が認められた場合、留学期間は、在学年数に算入します。

4. 復学について

休学者が復学を希望する場合、以下の手続期日までに「復学願」を保証人との連署で提出し許可を得る必要があります。病気等で休学していた場合は、就学ができることを証明する書類（診断書等）を添付してください。

・復学の手続期日

春学期末に休学期間が終了する者：休学期間中の8月25日まで

秋学期末に休学期間が終了する者：休学期間中の3月11日まで

※期日までに復学願が提出されない場合は除籍となります。

5. 学籍の喪失

学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合として、卒業と退学、除籍の3種類があります。

(1) 卒業

各学部の修業年限以上在学し、各学部で定める卒業に必要な単位を修得した場合に卒業となり、学士の称号が与えられます。

(2) 退学

事情により、退学するときは所定の手続きが必要となります。

- ・ 原則として、指導担当教員（担任・チューター等）と面談する必要があります。

- ・ 「退学願」に事由を明記して、保証人との連署により学生証を添えて願い出てください。

※懲戒すべき事由で退学した学生は、原則として再入学は認めません。

※退学にあたり、当該学期の学費を既に納入している場合、学費の返還はできません。

(3) 除籍

以下に該当する者は除籍となり、本学の学生の身分を失います。

- ・ 定められた期間に所定の学費を納入しない場合
- ・ 在学期間が8年を超える場合
- ・ 休学期間終了までに所定の手続（復学、休学延長または退学）をしない場合
- ・ 死亡した場合

※除籍された者は、下記「6. 復籍について」の復籍することができる期間においても、休学・退学はできません。

6. 復籍について

上記「5. 学籍の喪失」「(3) 除籍」で学費未納の場合に限り、除籍措置の日から1ヵ月以内であれば、願い出により復籍することができます。所定の学費を納入し、復籍願に保証人と連署の上、復籍料（10,000円）とともに願い出てください。

除籍措置の日から1ヵ月を超えると、復籍できません。その場合は、再入学の手続きとなります。

7. 再入学

(1) 再入学を願い出ることができるのは、次の事由により学籍を喪失した場合に限ります。

- ① 退学により学籍を喪失した場合
- ② 除籍により学籍を喪失した場合（ただし、在学期間が8年を超えた場合を除く）

(2) 再入学申し出期間

上記①～③の学籍喪失日（退学日・除籍日）より2年以内で、再入学しようとする前学期の1月末日または7月末日まで。

(3) 再入学金

再入学を希望する場合は、再入学金（再入学する年度の入学金の2分の1）が必要です。

※改組・転換等により、退学・除籍以前に在学していた学部学科が開設されていない場合は、現在開設されている学部学科に変更して出願できますので、出願前にご相談ください。

8. 転学部・転学科

転学部・転学科を希望する場合は、春学期は6月15日、秋学期は1月15日までに教務センターに申請してください。ただし、転学先の学部・学科に欠員のある場合に限り、選考の上、転学を許可します。

京都先端科学大学学籍に関する取扱い 令和7年2月7日制定

（趣旨）

第1条 この取扱いは、京都先端科学大学学則（昭和44年4月1日制定。以下「学則」という。）及び京都先端科学大学大学院学則（平成6年3月14日制定。以下「大学院学則」という。）に規定する学生の学籍異動のうち、休学、復学、除籍、復籍、退学、再入学、転学部・転学科、転学等の取扱いに関し必要な事項を定める。

（学籍）

第2条 京都先端科学大学（以下「本学」という。）及び京都先端科学大学大学院（以下「本大学院」という。）に入学を許可された者に、本学の学籍を与える。

- 2 前項に規定する者に学籍番号を付与し、学生証を交付する。
- 3 学生の学籍に関する情報を管理するため学籍簿を作成する。

(休学)

- 第3条 休学を希望する者は、所定の休学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、病気による場合は医師又は病院の診断書を休学願に添付しなければならない。
- 2 疾病のため就学することが適当でないと認められる者については、学部長又は研究科長は休学を命じることができ。
 - 3 休学の期間は、学期初日から当該学期末までとし、願い出によって引き続き休学することができる。
 - 4 前項の本学における休学の期間は、継続して2年を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合、引き続き1年以内に限って延長することがある。また、通算して4年を超えることはできない。
 - 5 第3項の本大学院における休学の期間は、通算して2年を超えることはできない。
 - 6 休学期間内は、学費の納付を免除する。ただし、在籍料としてその年度の学期ごとに10,000円を指定の日までに納付しなければならない。ただし、当該学期の学費を既に納付した者にあっては、在籍料の納付を免除する。

(復学)

- 第4条 休学者が復学しようとする場合は、所定の復学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、病気により休学していた者は、復学して支障のない旨の医師または病院の診断書を添付しなければならない。
- 2 復学の手続期日は、次の各号のとおりとする。
 - (1) 春学期末に休学期間が終了する者 休学期間中の8月25日まで
 - (2) 秋学期末に休学期間が終了する者 休学期間中の3月11日まで
 - 3 復学の時期は学期の始めとする。
 - 4 復学時の在学セメスターは、休学時の在学セメスターとする。
 - 5 第2項において、所定の期日までに復学の手続きをしなかった場合は、その休学期間の末日をもって除籍とする。

(除籍)

- 第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。
- (1) 所定の納入期日までに学費の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者
 - (2) 休学期間終了までに所定の手続(復学、休学延長又は退学)をしない者
 - (3) 本学において、休学期間が通算4年または継続して2年を超えてなお復学又は退学しない者
 - (4) 本大学院において、休学期間が通算2年を超えてなお復学又は退学しない者
 - (5) 本学において、在学期間が8年を超える者
 - (6) 本大学院の修士課程において、在学期間が4年を超える者
 - (7) 本大学院の博士課程において、在学期間が、前期4年、後期6年を超える者
 - (8) 正当な理由がなく所定の手続を怠り、就学の意思がない者
 - (9) 死亡した者
 - (10) 留学生のうち、入学後相当期間が経過したにもかかわらず、留学生ビザを取得できなかった者、あるいは在留資格の変更が認められなかった者
 - (11) 留学生のうち、既に取得している留学生ビザの更新が認められなかった者
 - 2 除籍された者は、学生証を直ちに返還するとともに、図書等の借用、奨学金の受給等がある場合は、返還又は返済等の手続をしなければならない。
 - 3 第1項第1号の学費未納による除籍の日は、次の各号のとおりとする。
 - (1) 春学期学費未納者については、前年度3月31日付とする。
 - (2) 秋学期学費未納者については、前春学期末日付とする。
 - 4 第1項第2号から第9号までの除籍の日は、その事由の満了日付とする。
 - 5 第1項第10号及び第11号の除籍の日は、外国人留学生内規の定めるところによる。

（復籍）

第6条 学費の未納によって除籍された者が、除籍処置の日から1カ月以内に所定の復籍願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して学部長又は研究科長に提出した場合にのみ、学部長又は研究科長は復籍を許可することがある。

2 復籍を願い出る場合には、復籍料10,000円と未納の学費を納入しなければならない。

（退学）

第7条 病気、その他の事情により退学しようとする者は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。

2 退学する際には、学生証を直ちに返還するとともに、図書等の借用、奨学金の受給等がある者は、それぞれ返還又は返済等の手続を完了しておかなければならない。

3 退学の日は、次のとおりとする。

（1）学部長又は研究科長が許可した日。

（2）春学期学費未納者が退学願を提出した場合は、前年度末日付とする。

（3）秋学期学費未納者が退学願を提出した場合は、春学期末日付とする。

（4）当該学期履修科目の単位認定を希望する場合は、当該学期末日付とする。但し、学費の未納がある者は、当該学期までの学費の納入手続きを完了しなければならない。

（5）当該学期における単位認定を受けようとする場合は、原則として、当該学期末日までに在籍していなければならない。但し、学費の未納がある者は、当該学期までの学費の納入手続きを完了しなければならない。

（再入学）

第8条 次の各号のいずれかに該当する者が離籍の日から2年以内に同一学部学科又は同一研究科専攻への再入学を志願する場合は、所定の再入学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、再入学しても残りの在学期間で卒業・修了の見込みがない者は、再入学の願い出を認めない。

（1）退学した者

（2）除籍となった者（ただし、第5条第1項第1号、第2号、第3号、第4号、第8号、第10号及び第11号に該当する者のみとし、第6条において復籍した者は除く。）

2 再入学の手続期日は、再入学を希望する前学期の1月末日又は7月末日までとする。

3 再入学を許可された者は、所定の日までに再入学金及び学費を納入しなければならない。ただし、所定の日までに再入学金と学費とを納入しない場合は、再入学を取り消す。

4 再入学金は、再入学した年度の入学金の2分の1とする。

5 再入学者の学費は、再入学した年次の額とする。

6 再入学の時期は学期始めとする。

7 再入学時のセメスターは、退学又は除籍時の履修状況その他を考慮して定める。

8 再入学を許可された者の在学期間及び休学期間は、退学等前の在学期間及び休学期間をそれぞれ通算し、学則第4条及び大学院学則第6条に定める在学期間を超えることができない。

9 再入学を許可された者には、学籍番号を付与し、学生証を交付し、学籍簿を作成する。

10 改組・転換等により、退学・除籍以前に在学していた学部学科又は研究科専攻が開設されていない場合は、再入学志願時に開設されている学部学科又は研究科専攻へ志願することができる。

（転学部・転学科）

第9条 本学他学部転学部を志願する者、又は本学の同一学部で転学科を志願する者は、所定の転学部又は転学科願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、志願学部長に提出し、志願学部長の許可を得なければならない。

2 転学部・転学科は、志望する学部・学科に欠員のある場合とする。

3 転学部・転学科の併願及び再転学部・再転学科は認めない。

4 転学部・転学科の時期は学期学年始めとし、学期途中の転学部・転学科はできない。

5 転学部・転学科の手続期日は、転学部・転学科を希望する前学期の1月15日又は6月15日までとする。

6 転学部・転学科を許可された者は、所定の日までに転学部手数料又は転学科手数料10,000円を納入しなければならない。ただし、手数料10,000円を納入しない場合は、転学部・転学科を取り消す。

- 7 転学部・転学科者の学費は、新所属学部学科の年次の額とする。
- 8 転学部・転学科時の在学セメスター及び既修得単位の認定については、新所属学部学科において、修学状況その他を考慮して定める。
- 9 転学部・転学科を許可された者には、現学生証と引換えに学部・学科変更した新生学生証を再交付する。

(他大学等への転学)

- 第10条 学部学生が他の大学又は他の大学院等への入学又は転(編)入学を志望する場合は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して学部長に提出し、学部長および学長の許可を得なければならない。
- 2 大学院生が他の大学又は他の大学院等への入学又は転(編)入学を志望する場合は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して研究科長に提出し、研究科長および学長の許可を得なければならない。

学生留学内規 平成 11 年 9 月 17 日制定

- 第 1 条 京都先端科学大学学則(以下「学則」という。)第 14 条に基づく他の大学または短期大学への留学に関しては、学則に定めるもののほか、この内規による。
- 第 2 条 この内規にいう留学とは、他の大学または短期大学の特定の授業科目を履修するために現地で留まり、本学での履修は行わない場合をいう。
- 第 3 条 留学の対象となる大学等とは、国内においては留学(単位互換)に関して本学と協定を結んだ大学、外国においては留学に関して本学と協定または合意している大学等、あるいは学位授与権を有する大学等及びこれに相当すると学長が認めた教育機関をいう。
- 第 4 条 留学できる者は、本学に 1 年以上在学した者でなければならない。
- 第 5 条 留学する者の学籍上の取扱いは、留学とし、休学扱いしない。留学期間は在学期間に算入する。
- 第 6 条 留学期間は 1 年以内とする。
 - 2 外国留学で特別の事情がある場合は、1 年以内に限り留学の延長を許可することがある。
- 第 7 条 留学を希望する場合は、所定の留学願及び留学予定先の留学許可を証する書類の写し等必要書類を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
 - 2 留学の許可は、当該学部教授会の議を経て、学長が行う。
- 第 8 条 外国留学で留学期間の延長を願い出る場合は、留学延長願を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
- 第 9 条 留学を終了した者は、指定の留学終了届を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
- 第10条 留学期間中に修得した授業科目の単位を本学の卒業要件の単位として認定を受けようとする者は、留学先大学等の発行した成績証明書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
 - 2 前項の単位の認定は、当該学部教授会の議を経て学部長が行う。この場合の認定し得る単位数は 60 単位を限度とする。
- 第11条 年度の途中から留学する者は、留学前に科目登録し受講している授業科目について、留学終了後に再度科目登録し、継続して履修することができる。ただし、開講している科目に限る。春学期開講科目または秋学期開講科目についても、年度当初または秋学期登録期間に科目登録し、履修することを認める。
- 第12条 留学中の学費の取扱については、本学学費規程によるものとする。
- 第13条 留学している者が当初の目的を達成することができず、学生の本分に反する行為があったと認められるとき、学長は、当該学部教授会の議を経て、留学の許可を取り消すことができる。
- 第14条 外国の語学専門学校のうち、学長が認めた学校における 10 週間以上の語学研修も留学の対象とする。
 - 2 前項の留学を終えて、第 10 条に該当しない授業科目の履修を本学の科目の単位として認定を受けようとする者は、履修時間数及び修了証書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
- 第15条 この内規の改廃は、大学国際部会、各学部教授会及び大学評議会の議を経るものとする。

附則省略

第2部 教育課程

工学部機械電気システム工学科 教育目的と3つのポリシー

<工学部機械電気システム工学科の教育目的>

機械分野と電気分野に跨る専門分野の基礎知識を修得した上で、物事の本質を把握し論理的に思考する能力を身に付け、グローバルな視点で社会ニーズに基づく問題を発見し、自らの専門能力を総合的に駆使して適切に解決できる人材の育成を目的とする。

<卒業認定・学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

工学部機械電気システム工学科では、4 年以上在学し、所定の単位を取得し、下記の能力を身につけたと判断できる学生に対し卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 知識・理解

1.1 機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。

2.2 専門知識や意見について、日本語と英語を用いて他者と意思疎通を行うことができる

3. 思考・判断・表現

3.1 修得した知識、技能並びに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現することができる。

3.2 自ら設定した主題に対して、文献調査、実験等で収集した情報に基づき、客観的に分析しながら論理的、批判的に考察することができる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 学びを通じ、変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を有する人材を育成するために、以下の方針に基づいた教育プログラムを実施する。

1. 教育課程編成

1.1 教育課程として、現代リベラルアーツ科目および学部専門科目を配置する。

1.2 機械工学と電気工学に跨る学際領域分野の専門共通科目と専門科目（専門知識と専門技能）を修得させ、多角的に真理を探究する力を育成する。

1.3 専門科目（専門知識と専門技能）を修得後、総合演習（キーストーン、キャップストーン、卒業研究）を通じて、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成する。

2. 学修方法・学修過程

（学修方法）

2.1 4 年間の教育課程では、現代リベラルアーツ科目や学部専門科目を理論的に学修するだけでなく、演習、実験・実習、総合演習も連動させながら実践的かつ能動的に学修する。

（学修過程）

- 2.2.1 学部専門科目としての実験・実習・総合演習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行う。
- 2.2.2 1年生では、初年次科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行う。
- 2.2.3 1年生および2年生では、基礎的な数学・物理・情報処理の知識修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を育む学修を行う。
- 2.2.4 グローバルな技術者としての基礎的な英語の語学力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで英語科目を学修する。また、英語で学ぶ留学生は、一貫したカリキュラムで基礎的な日本語科目を学修する。
- 2.2.5 総合演習で社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行う。
- 3. 学修成果の評価
- 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。
- 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

＜入学者受け入れの方針＞（アドミッション・ポリシー）

本学部の教育目的に即した人材を育成するため、本学部の教育目的を理解し、意欲と主体性をもって勉学に励むことができ、高等学校の教育課程で修得する数学と理科（物理基礎・物理）を中心とした基礎的な学力とそれを活用する論理的思考力、また基礎的な英語力と英語コミュニケーション能力を備える人を求めます。

- 1. 工学を学ぶために必要な基礎的な知識・技能を有する。
- 2. 工学について考え、判断する能力があり、自分の考えを表現できる。
- 3. 工学に対する強い興味・関心があり、創造的思考力を育むため、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- 4. 複雑で複合的な問題に挑戦するために、多様な人々と協働して取り組める。
- 5. グローバル社会で活躍できる教養（専門性・先進性・多様性・道徳性）を身に付け、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

＜カリキュラムツリー＞

カリキュラムツリーは、p.43 および本学ホームページに掲載していますのでご参照ください。



第1章 機械電気システム工学科

1. 卒業に必要な単位数

【科目区分】				必修	卒業要件			
現代リベラル アーツ科目	未来展望科目			—	2単位以上		—	
	学際コア科目	人間と発達		—	2単位以上			
		人間と社会						
		人間と自然						
		人間の複眼的理解						
	初年次科目			4	4単位		その他3 単位以上	
	語学・異文化理 解科目	英語科目		10	必修10単位を含む18単位以上			
		日本語科目（留学生）		—	(18単位以上*9月入学生科目)			
		第二外国語科目		—				
		海外研修科目		—				
	スポーツ・ライフスキル科目			—	3単位以上			
	キャリア 教育科目	キャリアデザイン		—				
		企業実習						
インターンシップ実習								
フィールド・スタディ科目			—			—		
ロジカル思考 基礎科目	微分積分と線形代数Ⅰ・Ⅱ		12	必修14単位、および「情報リテラ シーA」「情報リテラシーB」のう ち1科目以上を含む18単位以上				
	数理統計学		—					
	ビジネス・データサイエンス入門		—					
	数値解析プログラミング		2					
	情報リテラシーA・B		—					
他学部・他学科、大学コンソーシアム京都などで修得した単位								
小計				50単位以上				
学部専門科目	専門共通 科目	専門共通基礎科目		—	専門共通基礎科目、理工工学科目 （基礎）、工業数学科目（基礎） 、情報処理科目（基礎）から 必修12単位を含む19単位以上		その他学部専門科目全体より2 単位以上	
		理工工学科目	基礎	12				
		工業数学科目	基礎	—				
			応用	—				
		情報処理科目	基礎	—				
	応用		—					
	専門科目	設計生産（基礎/応用）		—	専門科目（基礎） 16単位より12単位以上			
		ロボティクス（応用/発展）		—				
		計測（応用/発展）		—				
		制御（応用/発展）		—				
		力学（基礎）		—				
		材料（基礎）		—	専門科目（応用・発展） 49単位より24単位以上			
		イオニクス（基礎/応用/発展）		—				
		電磁気（応用）		—				
		アクチュエータ（応用/発展）		—				
		エネルギー（応用）		—				
		デバイス（応用）		—				
		回路（応用）		—				
		通信（応用）		—				
		実験・実習						6
総合演習★			6	必修6単位を含む12単位以上				
小計				78単位以上				
総計				128単位以上				

★総合演習の「キャブストーンプロジェクト」または「研究室プロジェクトⅠ・Ⅱ」はいずれかの科目のみ履修可能です。

卒業に必要な科目区分として、必ず修得しなければならない「必修科目」、指定された授業科目の中から自分で選択して修得する「選択科目」に分けられます。

卒業必要単位数128単位を修得するために、一定の要件に沿った履修を進めていってください。

2. 進級要件

上級学年に進級するためには、各学年において学科で定めた条件を満たさなければなりません。

		1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※		—	—	88 単位以上
単位修得が必要な必修科目	現代リベラル アーツ科目	微分積分と線形代数Ⅰ	英語科目より必修 10 単 位を含む 18 単位以上	—
	学部専門科目	物理工学Ⅰ	—	キーストーンプロジェク ト

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まない

3. 必修科目

各セメスターにおける必修科目は下記の通りです（丸数字は単位数）。

年次	セメ	現代リベラルアーツ科目	学部専門科目	単位数
1	1	デザイン基礎② イングリッシュ・コミュニケーションⅠ② エンジニアリング・イングリッシュⅠ② プラクティカル・イングリッシュⅠ② インテンシブ・リーディング② インテンシブ・リスニング② 数値解析プログラミング②		14
	2	デザイン思考② 微分積分と線形代数Ⅰ⑥	物理工学Ⅰ⑥	14
2	3	微分積分と線形代数Ⅱ⑥	物理工学Ⅱ⑥	12
	4	—	機械製作実習③	3
3	5	—	メカトロ実習（ロボット：基礎）③ キーストーンプロジェクト⑥ ※春秋通年	9
	6	—	—	—

※英語科目、一部の実験・実習など、クラス分けが必要な科目は予め登録されています。

※必修科目を修得できなかった場合、原則翌セメスター以降に再履修しなければなりません。

4. 履修登録

1) 履修登録制限（CAP制）

各セメスターにおいて、履修登録できる単位数の上限は原則24単位（年間48単位）です。予め登録された科目の単位も含まれます。

ただし、「海外研修ⅠA・ⅠB・ⅠC・Ⅱ」、「企業実習Ⅰ・ⅡA・ⅡB・Ⅲ」、「インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「フィールド・スタディA・B・C」の単位は登録制限単位数に含まれません。

2) 履修登録の留意点

履修登録はまず必修科目を優先してください。選択科目の履修登録にあたっては、次年度以降においては必修科目と開講時間が重なる場合や、開講されず履修登録ができなくなる場合があるので、次年度以降の履修登録についても十分検討した上で履修計画をたててください。

5. カリキュラムの構成

工学部機械電気システム工学科では、従来のメカトロニクス分野に包含される機械工学・電気工学・電子工学を中心に、化学工学・材料工学・情報工学も包含した新しい産業応用分野に対応する広義のメカトロニクス分野を教育・研究の対象とします。機械電気システム工学科のカリキュラムを学修することにより、「未来につながる課題を自ら設定し、それを解決できる先端人材」を育成します。

- 専門的知識・学術ならびに高い教養と、世界で通用する先進性・多様性・倫理観を涵養し、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材
- 複数分野に跨る分野横断的技術作業に従事できる人材
- 英語でも日本語でも専門用語を使いながら仕事ができる人材

機械電気システム工学科のカリキュラムは「現代リベラルアーツ科目」と「学部専門科目」から構成され、主に以下のような特長のカリキュラムを提供します。

- ① 工学部で日本初の「キャップストーンプロジェクト」の導入
- ② 学部専門科目の講義をすべて英語で実施
- ③ ②のために、1年次春学期に週10コマ（1コマ：90分）の英語教育を実施
- ④ 「物理工学」「工業数学」のコマ数は通常の工学部と比べて1.5倍配当
- ⑤ 「体験先行型の学び」の導入

（1）現代リベラルアーツ科目

大学での学修に必要な基礎能力や、社会人として求められる基本的能力を身につけます。

- 大学生を含む社会人としての教養の修得（未来展望科目、学際コア科目）
- 語学能力（語学・異文化理解科目）
- 基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力（初年次科目）
- 基礎的就業力育成（キャリア教育科目）
- 身体活動を通したコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性の育成（スポーツ・ライフスキル科目）
- 論理的な思考力および数学・情報処理に関する基礎技量の獲得（ロジカル思考基礎科目）

学部専門科目の講義を英語で受講するために必要な英語力は、1年次春学期に週10コマの集中的な英語科目を含め、2年生終了までに配置した21コマ（「上級英語Ⅰ・Ⅱ」を含めると23コマ）の英語科目の授業で身につけます。1年次春学期に配置する10単位の英語科目は全て必修とし、必修10単位を含む18単位以上の英語科目の修得を2年生から3年生への進級要件とすることで、3年生以上での学部専門科目を英語で受講する力を担保します。

初年次科目では1年次春学期に「デザイン基礎」、1年次秋学期に「デザイン思考」をそれぞれ必修科目として学修します。「デザイン基礎」では下記の3つのテーマから最も興味がある1つのテーマを選択し、構想・設計・製作・確認という一連のプロセスを実践することで、専門科目で学修する多くの専門知識を利用した作業を体験します。

- テーマ1（機械系分野）：レゴマインドストームを活用したロボット製作
- テーマ2（電気系分野）：マイコンを活用したシステムの構築
- テーマ3（情報処理系分野）：スマートフォンを活用したシステムの構築

「デザイン思考」では、身の回りの生活から問題を発見し、関連知識を収集・共有し、グループ討論・ブレインストーミングを経て問題の解決に向けた提案・実装・効果確認・プレゼンテーション・レポート作成の実践を通して、大学における知識修得や研究に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを身につけます。

キャリア教育科目では2年次秋学期に「キャリアデザイン」を配置しています。産業界より招へいした講師から技術が果たす社会的な使命・役割について学び、キャリア形成における倫理観も含めた技術者としての職業意識を身につけます。

スポーツ・ライフスキル科目では「SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」から3単位以上の修得が必要で、京都亀岡キャンパスのスポーツ施設で実施します。工学部ではカリキュラム上1・2年生での修得を強く推奨します。

ロジカル思考基礎科目では数学や情報処理の汎用的な基礎知識を学修することにより、論理的な思考力を身に付けるとともに、学部専門科目を学ぶための土台を築きます。「微分積分と線形代数Ⅰ・Ⅱ」「数値解析プログラミング」は必修科目であり、「情報リテラシーA・B」ではいずれか1科目以上の合格が必要です。これらの科目は、後述の学部専門科目「専門共通科目」にて詳細を記します。

(2) 学部専門科目

学部専門科目は、「専門共通科目」「専門科目」「実験・実習」「総合演習」に区分されます。さらに専門共通科目および専門科目の各科目は学修レベルに応じて「基礎」「応用」「発展」に分類されます。

(a) 専門共通科目（現代リベラルアーツ科目「ロジカル思考基礎科目」を含む）

「専門共通基礎科目」「物理工学科目」「工業数学科目」「情報処理科目」の学修により、専門知識や専門技能を修得するために必要な物理・数学・情報処理や技術者としての使命感・倫理観を身につけます。

1 年次春学期では「機械電気システム工学概論」で学科カリキュラムの全体概要や科目の相互関係と実社会とのつながり、技術者としての社会的な使命や工学倫理、学部卒業後の進路（就職・進学）について学修します。また、「数値解析プログラミング」「情報リテラシーA」が配当され、前者では数値解析ソフトウェア「MATLAB」の基本を修得し、後者では情報処理の基礎や情報活用でのルール・マナーを学修します。

1 年次秋学期より本格的な英語での授業がスタートし、専門科目を履修するための基礎として「物理工学Ⅰ」「微分積分と線形代数Ⅰ」を集中的に学修します。これら2科目の修得が1年生から2年生への進級要件となっています。また、「情報リテラシーB」で情報処理とプログラミングの基本的な技術を修得します。

2 年次春学期も引き続き、専門科目を履修するための基礎として「物理工学Ⅱ」「微分積分と線形代数Ⅱ」を集中的に学修し、「Pythonプログラミング」で一般的なプログラミングの技術を修得します。2 年次秋学期以降にも工業数学やプログラミング・データ処理に関する選択科目が配当されています。

(b) 専門科目

機械電気システム工学科における工学教育の中核として、「設計生産」「ロボティクス」「計測」「制御」「力学」「材料」「イオニクス」「電磁気」「アクチュエータ」「エネルギー」「デバイス」「回路」「通信」の13分野における専門知識や専門技能を2 年次春学期より学修します。

「基礎」に分類されている科目は進路に依らず履修を推奨します。「応用」「発展」に分類されている科目は全て選択科目であり、勉学への興味と将来希望する進路に合わせて履修する分野を組み合わせることを推奨します。

(c) 実験・実習

「機械製作実習」「メカトロ実習（ロボット：基礎）」「メカトロ実習（エネルギー）」「メカトロ実習（ロボット：発展）」の4 科目で構成され、このうち「機械製作実習」「メカトロ実習（ロボット：基礎）」は必修科目です。総合演習（キャブストーンプロジェクト等）に必要な基礎技術を修得するとともに、安全とものづくりに対する意識を身につけます。

2 年次秋学期で履修する「機械製作実習」では機械加工および3次元プリンタの基礎を修得し、3年生以降に配当される「メカトロ実習」ではロボットやエネルギーに関連する実験と課題解決型学習（PBL）を通して、実習内容に関連する専門科目で学修した知識を深め、技能を実践します。

(d) 総合演習

3年生は必修科目として「キーストーンプロジェクト」、4年生は就職・大学院進学への進路に応じて「キャブストーンプロジェクト」もしくは「研究室プロジェクトⅠ・Ⅱ」を履修します。

キャブストーンとはピラミッドの頂上に置く石のことであり、“総仕上げ”の意味として使われています。専門科目で修得した知識を基礎に、その応用として企業が直面する課題の解決に学生4～5人のチームで取り組みます。教員だけでなく、課題を提示した企業の技術者・研究者もできるだけチームのミーティングに参加し、企業の視点から指導を行います。現場の課題に向き合うことで、実践的な課題分析力・課題解決力を修得するとともに、チームワークやコミュニケーション力を身につけます。

6. 科目ナンバリング

○1 桁目が“M”である科目ナンバーは工学部の科目であることを示しています。現代リベラルアーツ科目（大学共通）であっても、工学部独自内容の科目については科目ナンバーの1 桁目が“M”になります。

（英語科目（「上級英語Ⅰ・Ⅱ」を除く）、日本語科目（9月入学生向け）、初年次科目、「キャリアデザイン」、ロジカル思考基礎科目（「数理統計学」「ビジネス・データサイエンス入門」を除く））

詳細は次頁の通りです。

＜科目ナンバリング＞ ※P.13 の再掲

「科目ナンバー」は、「第2部」各学科の授業科目一覧に掲載しています。履修科目を選択する際に活用してください。

(1) 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を附番し分類することで、学修の段階や順序、授業科目の関係性等を表し、学内外に教育課程の体系性を明示する仕組みです。このナンバリングは、履修登録をする際、適切な授業科目を選択する目安ともなります。

(同じ科目名の科目であっても、学科によって異なる科目ナンバーを付している場合があります)

(2) 科目ナンバリングの構成

科目ナンバーは、以下のような8桁の英数字から構成されています。

(1 桁目) (2 桁目) (3 桁目) (4 桁目) (5 桁目) (6 桁目) (7～8 桁目)

D F 1 1 1 2 01

(大学共通/未来展望/入門レベル/講義形式/DP1.1関連/2単位科目/通し番号)

[科目ナンバー一覧]

(1桁目) 開講学部・学科等コード		(2桁目) 科目区分コード		(3桁目) レベルコード (授業科目の難易度、 履修に選んだ学年等)		(4桁目) 授業形態コード		(5桁目) 学位授与の方針 (授業科目に最も関連する ディプロマ・ポリシー)		(6桁目) 単位数	(7～8桁目) 通し番号	
大学共通	D	現代 リベラル アーツ 科目	未来展望科目	F	入門～基礎	1	講義	1	DP 1.1 (知識・理解)	1	修得 できる 単位数	科目 区分 分布 の通し 番号
			学際コア科目	C	基礎～専門	2	講義・演習	2	DP 2.1 (技能)	2		
			初年次科目	U	専門～応用	3	演習	3	DP 2.2 (技能)	3		
			アカデミック・リテラシー科目	A	応用～発展	4	実験・実習・実技	4	DP 3.1 (思考・判断・表現)	4		
			英語科目	E			学外実習	5	DP 3.2 (思考・判断・表現)	5		
			日本語科目	J			卒業研究	6	DP 4.1 (関心・意欲・態度)	6		
			第二外国語科目	L			その他	9	DP 4.2 (関心・意欲・態度)	7		
			海外研修	K								
			スポーツ・ライフスキル科目	S								
			キャリア教育科目	R								
経済 経営	経済学科 経営学科	E B	専門科目	フィールド・スタディ科目	D							
				入門科目	A							
人文	歴史文化学科 心理学科	H P	専門科目	キャリア科目	R							
				法学科目	L							
環境 バイオ	生物環境科学科 応用生命科学科	C V	専門科目	展開科目	I							
				演習科目	G							
健康 医療	看護学科 言語聴覚学科	N R	専門科目	基礎科目	B							
				展開科目	I							
	健康スポーツ学科	T	専門科目	基礎科目	B							
				応用科目	O							
工	機械電気システム工学科	M	現代 リベラル アーツ 科目	基礎科目	B							
				応用科目	O							
				実習科目	P							
				実技科目	Q							
				演習科目	G							
			専門科目	初年次科目 (工学部)	U							
				英語科目 (工学部)	E							
				日本語科目 (工学部)	J							
				キャリア教育科目 (工学部)	R							
				ロジカル思考基礎科目 (工学部)	T							
	専門共通科目	C										
	専門科目	M										
	実験・実習科目	X										
	総合演習科目	G										

機械電気システム工学科授業科目一覧

					S: 春学期				F: 秋学期			
科目区分	科目ナンバー	授業科目の名称	単位数		開講 学期	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次			
			必 修	選 択								
現代リベラルアーツ科目	未来展望科目	DF114201	コミュニティの再生		2	F	○	○	○	○		
		DF114202	生命の歩みと未来		2	S	○	○	○	○		
		DF114203	多様性の尊重		2	S	○	○	○	○		
		DF114205	クオリティ・オブ・ライフの探究		2	F	○	○	○	○		
		DF114206	環境と開発		2	F	○	○	○	○		
	人間と発達	DC111201	文学		2	F	○	○	○	○		
		DC111202	哲学		2	F	○	○	○	○		
		DC111203	心理学入門		2	S	○	○	○	○		
		DC111204	現代史		2	S	○	○	○	○		
		DC111205	健康とライフステージ		2	S/F	○	○	○	○		
		DC111206	健康スポーツ理論		2	S/F	○	○	○	○		
	人間と社会	DC111207	経済学入門		2	S	○	○	○	○		
		DC111208	経営学入門		2	F	○	○	○	○		
		DC111209	法学		2	S/F	○	○	○	○		
		DC111210	人権の歴史と現代		2	S/F	○	○	○	○		
		DC111211	日本国憲法		2	S/F	○	○	○	○		
		DC111212	地政学		2	F	○	○	○	○		
		DC111213	文化社会学		2	F	○	○	○	○		
	人間と自然	DC111214	生物学入門		2	S	○	○	○	○		
		DC111215	微生物の世界		2	F	○	○	○	○		
		DC111216	京の食材		2	S	○	○	○	○		
		DC111217	科学技術史		2	S/F	○	○	○	○		
		DC111218	分子遺伝学		2	F	○	○	○	○		
	人間の複眼的理解	DC111220	生命倫理学		2	S/F	○	○	○	○		
		DC111222	メディア・リテラシー		2	S	○	○	○	○		
		DC111223	リベラルアーツ特別講義A		2	S	○	○	○	○		
		DC111224	リベラルアーツ特別講義B		2	F	○	○	○	○		
		DC111225	リベラルアーツ特別講義C		2	S	○	○	○	○		
		DC111226	リベラルアーツ特別講義D		2	S/F	○	○	○	○		
	初年次科目	MU141201	デザイン基礎	2		S	○	○	○	○		
		MU134202	デザイン思考	2		F	○	○	○	○		

科目区分		科目ナンバー	授業科目の名称	単位数		開講 学期	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
				必修	選択						
現代リベラルアーツ科目	語学・異文化理解科目	英語科目	ME133201	イングリッシュ・コミュニケーションⅠ	2		S	○	○		
			ME131202	エンジニアリング・イングリッシュⅠ	2		S	○	○		
			ME133203	プラクティカル・イングリッシュⅠ	2		S	○	○		
			ME133204	インテンシブ・リーディング	2		S	○	○		
			ME133205	インテンシブ・リスニング	2		S	○	○		
			ME233206	イングリッシュ・コミュニケーションⅡ		2	F	○	○	○	○
			ME231207	エンジニアリング・イングリッシュⅡ		2	F	○	○	○	○
			ME233108	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	F	○	○	○	○
			ME333109	イングリッシュ・コミュニケーションⅢ		1	S		○	○	○
			ME333100	プレゼンテーション・ディスカッションⅠ		1	S		○	○	○
			ME334111	アカデミック・ライティングⅠ		1	S		○	○	○
			ME333112	イングリッシュ・コミュニケーションⅣ		1	F		○	○	○
			ME333113	プレゼンテーション・ディスカッションⅡ		1	F		○	○	○
			ME333114	アカデミック・ライティングⅡ		1	F		○	○	○
			DE333112	上級英語Ⅰ		1	S	○	○	○	○
			DE333113	上級英語Ⅱ		1	F	○	○	○	○
	第二外国語科目	DL133101	ベーシック中国語Ⅰ		1	S/F	○	○	○	○	
		DL133102	ベーシック中国語Ⅱ		1	S/F	○	○	○	○	
		DL133103	ベーシック韓国語Ⅰ		1	S/F	○	○	○	○	
		DL133104	ベーシック韓国語Ⅱ		1	S/F	○	○	○	○	
		DL133105	ベーシックドイツ語Ⅰ		1	S	○	○	○	○	
		DL133106	ベーシックドイツ語Ⅱ		1	F	○	○	○	○	
		DL133107	ベーシックフランス語Ⅰ		1	S	○	○	○	○	
		DL133108	ベーシックフランス語Ⅱ		1	F	○	○	○	○	
		DL133109	ベーシックスペイン語Ⅰ		1	S	○	○	○	○	
		DL133110	ベーシックスペイン語Ⅱ		1	F	○	○	○	○	
	海外研修科目	DK156201	海外研修ⅠA		2	S/F	○	○	○	○	
		DK156202	海外研修ⅠB		2	S/F	○	○	○	○	
		DK156203	海外研修ⅠC		2	S/F	○	○	○	○	
		DK156404	海外研修Ⅱ		4	S/F	○	○	○	○	

科目区分		科目ナンバー	授業科目の名称	単位数		開講学期	1年次	2年次	3年次	4年次
				必修	選択					
現代リベラルアーツ科目	スポーツ・ライフスキル科目	DS146101	S L S I		1	S	○	○	○	○
		DS146102	S L S II		1	F	○	○	○	○
		DS247103	S L S III		1	S		○	○	○
		DS247104	S L S IV		1	F		○	○	○
	キャリア教育科目	MR217201	キャリアデザイン		2	F		○	○	○
		DR157105	企業実習Ⅰ		1	S/F	○	○		
		DR157206	企業実習ⅡA		2	S/F	○	○		
		DR157207	企業実習ⅡB		2	S/F	○	○		
		DR157408	企業実習Ⅲ		4	S/F	○	○		
		DR357109	インターンシップ実習Ⅰ		1	S/F			○	○
		DR357210	インターンシップ実習Ⅱ		2	S/F			○	○
		DR357411	インターンシップ実習Ⅲ		4	S/F			○	○
	フィールド・スタディ科目	DD157201	フィールド・スタディA		2	S/F	○	○	○	○
		DD157202	フィールド・スタディB		2	S/F	○	○	○	○
		DD157203	フィールド・スタディC		2	S/F	○	○	○	○
	ロジカル思考基礎科目	MT131601	微分積分と線形代数Ⅰ	6		F	○			
		MT231602	微分積分と線形代数Ⅱ	6		S		○	○	○
		DC111219	数理統計学		2	S/F	○	○	○	○
		DC111221	ビジネス・データサイエンス入門		2	F	○	○	○	○
		MT112203	数値解析プログラミング	2		S/F	○	○	○	○
		MT112204	情報リテラシーA		2	S	○	○	○	○
		MT212205	情報リテラシーB		2	F	○	○	○	○
学部専門科目	専門共通基礎科目	MC116201	機械電気システム工学概論		2	S	○	○	○	○
		MC411202	知的財産		2	F				○
	物理工学科目	基礎	MC121603	物理学Ⅰ	6		F	○		
			MC221604	物理学Ⅱ	6		S		○	○
			MC211205	物理学Ⅲ		2	F		○	○
	工業数学科目	基礎	MC221306	微分積分学統論Ⅰ		3	F		○	○
			MC221307	微分積分学統論Ⅱ		3	S			○
		応用	MC321308	フーリエ解析と偏微分方程式		3	F			○
			MC311209	複素解析		2	S			○
	情報処理科目	基礎	MC222310	Pythonプログラミング		3	S		○	○
			MC322311	C言語プログラミング		3	F		○	○
		応用	MC322312	C言語システムプログラミング		3	S			○
			MC321313	ディジタル信号処理		3	F			○

科目区分			科目ナンバー	授業科目の名称	単位数		開講学期	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
					必修	選択					
学部 専攻科目	専門 科目	設計生産	基礎 MM211401	機械設計製図		4	S			○	○
			応用 MM311202	設計生産工学		2	F			○	○
		ロボティクス	応用 MM311203	機構学・移動ロボット入門		2	S			○	○
			発展 MM411204	ロボットマニピュレータ入門		2	F			○	○
		計測	応用 MM311205	計測工学		2	F			○	○
			発展 MM411206	センサ工学		2	S				○
		制御	応用 MM311207	古典制御工学		2	S			○	○
			MM311208	現代制御工学		2	F			○	○
			発展 MM411209	ディジタル制御工学		2	S				○
		力学	基礎 MM214410	工業力学		4	S		○	○	○
		材料	基礎 MM214411	材料力学		4	F		○	○	○
		イオニクス	基礎 MM214412	物理化学		4	S			○	○
			応用 MM311213	電気化学		2	F			○	○
			発展 MM411214	電池工学		2	S				○
		電磁気	応用 MM314415	電磁気学		4	F		○	○	○
		アクチュエータ	応用 MM311216	モータ工学基礎		2	S			○	○
			発展 MM411217	モータ制御		2	F			○	○
			MM411218	アクチュエータシステム		2	S				○
		エネルギー	応用 MM311219	送配電工学		2	S				○
			MM311220	発電電工学		2	F				○
		デバイス	応用 MM311221	パワーエレクトロニクス工学		2	F			○	○
			MM311222	半導体工学		2	S				○
		回路	MM311223	電気回路		2	F		○	○	○
			MM334124	電気回路演習		1	F		○	○	○
			MM311225	アナログ電子回路		2	S			○	○
			MM311226	論理回路		2	F			○	○
		通信	応用 MM311227	通信工学		2	S				○
			MM311228	情報通信ネットワーク		2	F				○
		実験・実習科目	MX241301	機械製作実習	3		F		○	○	○
			MX347302	メカトロ実習（ロボット：基礎）	3		S			○	○
			MX447303	メカトロ実習（エネルギー）		3	F			○	○
			MX447304	メカトロ実習（ロボット：発展）		3	S				○
		総合演習科目	MG347601	キーストーンプロジェクト	6		S-F※			○	
			MG467602	キャップストーンプロジェクト		6	S-F※				○
			MG461403	研究室プロジェクトⅠ		4	S				○
			MG465404	研究室プロジェクトⅡ		4	F				○

※ これらの科目は通年科目であり、春学期および秋学期を通して履修が必要です。

工学部機械電気システム工学科カリキュラムツリー(4月入学生・2025年度入学以降)

【教育目的】

機械分野と電気分野に跨る専門分野の基礎知識を修得した上で、物事の本質を把握し論理的に思考する能力を身に付け、グローバルな視点で社会ニーズに基づく問題を発見し、自らの専門能力を総合的に駆使して適切に解決できる人材の育成を目的とする。

【カリキュラムの特徴】(4月入学・日本語準生)

- ① 工学で日本初の「キャブストーンプロジェクト」
- ② 「English-Medium Instruction (EMI)」
→学部専門科目の講義をすべて英語で実施
- ③ 1年次春学期に英語での専門授業を理解する英語力を修得

- ④ ゆっくりと確実に基礎を固める「物理工学」と「工業数学」
- ⑤ 入学ですぐにものづくりを体験する「体験先行型の学び」
- ⑥ 「テラーメイド型カリキュラム」
→13の専門分野を自由に組み合わせて学修

【育成する人材像】

- 未来につながる課題を自ら設定し、それを解決できる先端人材を輩出
- 専門的知識・学術ならびに高い教養と、世界で通用する先進性・多様性・倫理観を涵養し、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材
 - 複数分野に跨る分野横断的技術作業に従事できる人材
 - 英語でも日本語でも専門用語を使いながら仕事ができる人材

アドミッション・ポリシー(AP)

本学部の教育目的に即した人材を育成するため、本学部の教育目的を理解し、意欲と主体性をもって勉学に励むことができ、高等学校の教育課程で修得する物理と数学を中心とした基礎的な学力とそれを活用する論理的思考力、また基礎的な英語力と英語コミュニケーション能力を備える人を求めます。

AP1: 工学を学ぶために必要な基礎的な知識・技能を有する。

AP2: 工学について考え、判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

AP3: 工学に対する強い興味・関心があり、創造的思考力を育むため、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。複雑で複合的な問題に挑戦するために、多様な人々と協働して取り組める。グローバル社会で活躍できる教養(専門性・先進性・多様性・道徳性)を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

カリキュラム・ポリシー(CP)

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を有する人材を育成するために、以下の方針に基づいた教育プログラムを実施する。

CP1.1: 教育課程として、現代リベラルアーツ科目および学部専門科目を配置する。

CP2.1: 4年間の教育課程では、現代リベラルアーツ科目や学部専門科目を理論的に学修するだけでなく、演習、実験・実習、総合演習も運動させながら実践的かつ能動的に学修する。

CP2.2.2: 初年次科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行う。

CP2.2.4: グローバルな技術者としての基礎的な英語の語学力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで英語科目を学修する。また、英語で学ぶ留学生は、一貫したカリキュラムで基礎的な日本語科目を学修する。

CP2.2.3: 1年生および2年生では、基礎的な数学・物理・情報処理の知識修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション・リーダーシップ・協調性を育む学修を行う。

CP1.2: 機械工学と電気工学に跨る学際領域分野の専門共通科目と専門科目(専門知識と専門技能)を修得させ、多角的に真実を探究する力を育成する。

CP2.2.1: 学部専門科目としての実験・実習・総合演習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行う。

CP1.3: 専門科目(専門知識と専門技能)を修得後、総合演習(キーストーン、キャブストーン、卒業研究)を通じて、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成する。

CP2.2.5: 総合演習で社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行う。

未来展望科目	学際コア科目
コミュニティの再生 生命の多岐と未来 多様性の尊重 クオリティ・オブ・ライフの探究 環境と開発	文学 哲学 現代史 健康スポーツ理論 心理学入門 経済学入門 経営学入門 日本国憲法 法学 地政学 京の食文化 文化社会学 生物科学入門 科学技術史 生命物理学 メディア・リテラシー 等

現代リベラルアーツ科目
未来展望科目 学際コア科目 初年次科目 語学・異文化理解科目 スポーツ・ライフスキル科目 キャリア教育科目 フィールド・スタディ科目

学部専門科目
専門共通科目 専門共通基礎科目 専門科目 実験・実習 総合演習

教育課程							
4月入学生セメスター							
1	2	3	4	5	6	7	8
未来展望科目 学際コア科目		未来展望科目 学際コア科目		未来展望科目 学際コア科目		未来展望科目 学際コア科目	
初年次科目		初年次科目		初年次科目		初年次科目	
語学・異文化理解科目		語学・異文化理解科目		語学・異文化理解科目		語学・異文化理解科目	
スポーツ・ライフスキル科目		スポーツ・ライフスキル科目		スポーツ・ライフスキル科目		スポーツ・ライフスキル科目	
キャリア教育科目		キャリア教育科目		キャリア教育科目		キャリア教育科目	
フィールド・スタディ科目		フィールド・スタディ科目		フィールド・スタディ科目		フィールド・スタディ科目	
ロジカル思考基礎科目		ロジカル思考基礎科目		ロジカル思考基礎科目		ロジカル思考基礎科目	
専門共通科目		専門共通科目		専門共通科目		専門共通科目	
専門共通基礎科目		専門共通基礎科目		専門共通基礎科目		専門共通基礎科目	
専門科目		専門科目		専門科目		専門科目	
実験・実習		実験・実習		実験・実習		実験・実習	
総合演習		総合演習		総合演習		総合演習	

ディプロマ・ポリシー(DP)

4年以上在学し、所定の単位を取得し、下記の能力を身につけたと判断できる学生に対し卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

DP3.1

DP1.1

DP2.2: 専門知識や意見について、日本語と英語を用いて他者と意思疎通を行うことができる。

DP4.1, 4.2

DP4.2

DP2.1: 必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。

DP4.1: 学びを通じ、変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

DP3.1: 修得した知識、技術ならびに経験を活かして、複数の思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現することができる。

DP1.1: 機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

DP4.2: 多様な他者と強調しながら、自律的な社会人として行動できる。

DP3.2: 自ら設定した主題に対して、文献調査、実験等で収集した情報に基づき、客観的に分析しながら論理的、批判的に考察することができる。

赤枠科目	必修科目
黒枠科目	選択科目
白背景科目	現代リベラルアーツ科目
薄黄背景科目	専門共通基礎・専門基礎科目
黄背景科目	専門共通発展・専門発展科目
橙背景科目	実験・実習・総合演習科目

第2章 大学共通

インターンシップ（企業実習）プログラム

目的

「世界で活躍できる人材になってほしい」。学生が卒業後も豊かな人生を送れるように、インターンシップ推進課では、キャリアマネジメント課と共にキャリア教育を行っています。インターンシップを通じて働く意味はもちろんのこと、社会から求められる人材についての“学び”や“気づき”を得て、進路や学生生活の充実を図ることを目的としています。

全学共通型インターンシップ（本学主催）

全学生対象の全学共通型インターンシップ（企業実習）は、4月に説明会を行い、学内選考を経て実習先を決定します。その後、夏季休暇を利用し、2週間～1カ月程度の実習を経験します。また、実習経験をより良いものとするために、事前・事後学習を行います。事前学習では、業界・企業研究を通じて実習先への理解を深めます。実習後の事後学習では、様々な角度で自身を振り返り、成果報告会にて学びや気づき、そして今後の目標などを発表します。海外・国内ともに多様なプログラムを提供しています。

全学共通型インターンシップは海外コースと国内コースの2種類のプログラムがあり、応募段階でどちらのコースを希望するか選択していただきます。

「海外コース」・・・海外へ渡航し、現地企業および団体にて実習を行う。

実習例）某都銀米国支店での金融実務、某メーカー欧州統括拠点での管理実務、米国の菓子製造会社での実務等。

「国内コース」・・・国内の企業および団体にて実習を行う。

実習例）メーカー、金融、IT、食品、スポーツなど、多様な業界・職種の受入先が100社以上あり。

※2024年度実績：海外コース、国内コース合わせて200名以上が参加。

<スケジュール>

4月 説明会・募集・出願

5月 学内選考

6～7月 事前授業

8～9月 実習

10月 事後授業および成果報告会

<履修手続き>

学内選考通過後に教務センターにて登録を行います。

※履修登録の取り消し（辞退）は、学内選考通過後3日以内にインターンシップ推進課へ申し出てください。

<単位認定について>

プログラムを修了した者については、評価基準に応じて採点の上、単位認定を行います。認定された単位は、各学部のカリキュラムで想定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

キャリアディベロップメントセンター・インターンシップ推進課

京都太秦キャンパス 西館 1F インターンシップ推進課

《窓口取扱時間》 月～金 8:30～17:00（大学が定める休業日を除く。長期休業期間中は時間変更有。）

TEL：075-406-9260 E-Mail：intern@kuas.ac.jp

大学コンソーシアム京都 単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、他の加盟大学・短期大学において修得した授業科目の単位を自大学の単位として修得したものとみなされる制度です。現在では約50校の加盟校と協定を締結し、多くの学生が多種多様な学問分野の講義を履修しています。

1. 出願手続き

(1) ガイダンス

オリエンテーション期間中に、本学「先端ナビ」に出願方法についての案内を掲示します。受講希望者は、期日までに、所定の出願手続きを行ってください。

(2) 出願方法

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」上でのオンライン出願となります。

まず、アカウントを作成してください。次に、受講希望科目の出願登録を行って、所定期日までに教務センターに申請報告をしてください。

単位互換科目の登録・履修制限は、当該年度で3科目以内です。本学の履修登録制限単位数には含みません。

(3) 各科目の詳細

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」で検索・閲覧してください。

2. 履修許可および履修手続き

大学コンソーシアム京都単位互換科目は、全科目定員制です。科目開設大学で書類選考等を実施し、履修可否は、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。

履修許可を受けた場合、科目開設大学から指示された所定の手続きを行ってください。

3. 科目開設大学からの諸連絡

授業に関するお知らせ・休講・補講・試験等については、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。また、大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」にて、各自で確認してください。

4. 単位認定について（健康医療学部看護学科・言語聴覚学科除く）

履修登録が正しくできており、一定の要件を充たした場合は、単位が認定されます。受講した科目名にかかわらず、本学の成績表には「単位互換（コンソーシアム）」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

卒業年次の場合、科目開設大学からの成績通知が、本学の卒業判定に間に合わない場合があります。単位互換科目の単位認定の可否が、卒業判定に影響するような受講は避けてください。

5. 「大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラム」について

例年4月頃に、一般の単位互換科目履修登録とは別に登録申請を受け付けます（年1回）。受講が許可され、一定の要件を充たした場合「インターンシップ実習」という科目名で単位認定されます。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。詳細は、インターンシップ推進課に照会してください。

放送大学 単位互換制度

放送大学はBSテレビ・ラジオ、インターネット等を通して、大学教育の機会を幅広く提供している正規の通信制大学です。本学は放送大学と単位互換協定を締結しており、本制度を適用している学部が、放送大学の科目を「特別聴講学生」として履修し単位を修得した場合、その単位が本学の卒業要件単位として認定されます。（各学部カリキュラムの規定があります。）

1. 出願手続き

(1) ガイダンス

履修・出願方法については本学「先端なび」で掲示します。

放送大学の第1学期(4月～9月)の受講については前年度の1月頃、第2学期(10月～3月)の受講については7月頃に案内します。

(2) 放送大学授業期間と試験期間

第1学期 授業期間：4月～9月 試験期間：7月中旬～下旬頃

第2学期 授業期間：10月～3月 試験期間：1月中旬～下旬頃

(3) 出願方法

各キャンパスの教務センターで、「特別聴講学生出願書類」「授業科目案内」を受け取り、所定の書類を本学の教務センターに提出してください。放送大学ホームページからのインターネット出願、また放送大学への直接の出願はできません。必ず本学の教務センターを通じて出願してください。

出願期間は、第1学期(4月～9月)は前年度の1月頃、第2学期(10月～3月)は7月頃です。

(4) 履修可能科目と単位数

本学「先端なび」で掲示する「放送大学開設授業科目一覧」、放送大学のWEBサイトで検索・閲覧してください。放送大学で履修する科目は履修登録制限単位数には含まれません。

2. 履修許可

放送大学で履修が許可されると出願学生の住所に合格通知書と払込取扱票が放送大学より送付されます。期日までに自身で学費を納付すると、学生の登録住所に印刷教材・入学許可書等が届きます。

3. 単位認定について（バイオ環境学部・健康医療学部・工学部は除く）

放送大学で修得した単位は受講科目名にかかわらず、本学の成績表には「単位互換（放送大学）」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で、要卒単位に算定されます。

卒業予定セメスター（学期）での受講はできません。また進級判定を行うセメスターで受講し、放送大学からの成績通知が本学の進級判定に間に合わない場合は、成績の可否に関係なく進級要件としての修得単位数には算定されません。単位互換科目の単位認定の可否が、進級判定に影響するような受講は避けてください。

国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）

【趣旨及び留学先】

本学と札幌学院大学及び沖縄国際大学との間で、教育研究の発展に資するため、大学間で単位互換に関する協定（包括協定）を結んでいます。これによりお互いに学生を交換し、交流及び学修ができるようになっています。

【資格及び決定手順】

資格：原則として、先方で留学する学年が2年次以上で、留学先での目的が明確かつ成績優秀な者。

決定手順：本学において希望する学生を選考のうえ、学長が推薦します。

相手先で受け入れについて審議された後決定します。（2月下旬予定）

【留学期間】

1年（春学期から）または半年（春学期または秋学期）とします。

札幌学院大学は、完全なセメスター制ではありませんので、半年での科目履修は限定されます。

【学修・単位】

履修指導：留学先の大学のカリキュラムに基づいて、履修指導を受けます。

留学先で修得した単位：学則に基づき、**60単位まで要卒単位として認定されます。**

【経費】

留学中の学費：本学に所定の学費を納めます。留学先に納める必要はありません。

その他の実習費等は、自己負担となります。

【出願手続】

希望する留学先を決め、願書及び履歴書等を本学教務センターへ提出します。（11月下旬頃）

詳細は「先端なび」からお知らせします。

提出必要書類等

- | | |
|--------------|------------------------|
| ① 願書 | （受入大学の様式。教務センターで配布） |
| ② 履歴書・自己紹介書 | （受入大学の様式。教務センターで配布） |
| ③ 履修登録予定科目一覧 | （本学の様式。教務センターで配布） |
| ④ 健康診断証明書 | （本学保健室に申し込む：手数料 340 円） |
| ⑤ 写真 | （学生証用 4×3 3 cm） |

【学籍】

国内留学期間：「留学」という学籍になり、在学期間に含まれます。

留学により卒業の時期が延びることはありません。

手続：留学が決定した後、留学願を本学教務センターに提出します。

留学が終了した後、留学終了届を本学教務センターに提出します。

【留学先での身分及び生活等】

札幌学院大学では特別科目等履修生、沖縄国際大学では特別聴講学生の身分になります。

留学先では、学生生活に必要な施設及び制度を利用することができます。

留学期間中の滞在先が決まっていない場合は、留学先の大学と相談しながら下宿先を探します。

【その他】

学則（本学および留学先の大学）に違反するとき、又は修学状況が悪いときは、資格を取り消すことがあります。

海外留学・海外研修 相談窓口 国際センター

本学ではより多くの学生の皆さんに海外経験の機会を提供することを目指し、さまざまな海外留学・海外研修プログラムを用意しています。海外提携校との交換留学プログラム、海外での短期研修など多種多様です。また、事前学習などのプログラムも設け、海外での学習の準備が整えられるようにしています。

海外留学・海外研修を実りあるものにするためには、第一に強い意欲と目的意識が必要となりますが、情報収集や事前準備もしっかりと行う必要があります。各プログラムの詳細は国際センターで確認してください。

1. 交換留学プログラム

【交換留学について】

本学では、海外の大学と協定を結び、交換留学プログラムを実施しています。交換留学では、約半年間あるいは約1年間、海外の大学に在籍し、学生として留学先大学の学生と同じ授業を受けます。交換留学期間中の本学での学籍は「留学」となり、休学ではなく在学期間に含まれます。

【応募時期】

春と秋の年2回あり、詳細は「先端ナビ」でお知らせします。

【交換留学の出願資格】

- 留学出発時点で1年以上本学に在学していること。
- 出願時の通算GPAが2.0以上であること。
- 出願時において、前セメスターまでの必修科目を修得していること。
- 出願時において、1セメスターあたり平均20単位以上修得していること。（*1）
- 派遣先大学の定める基準を満たしていること。

*1：認定科目及び春学期に成績の出ない科目は、単位を修得したものとする。

【交換留学先で修得した単位の認定】

1セメスターで24単位、2セメスターで48単位を限度として単位認定されます。他大学等で修得した単位と合計して60単位を限度として卒業要件単位に含まれます。

（注）ただし、交換留学先で修得した単位が必ずしも本学の単位として認定されるとは限りません。

【交換留学先一例】交換留学先は追加・変更となる場合があります。

国・地域名	交換留学協定締結校名
アメリカ合衆国	ノースセントラル大学
台湾	國立高雄餐旅大学
タイ王国	カセサート大学
	ランシット大学
インドネシア共和国	IPB農業大学
ドイツ	ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ

2. 海外研修プログラム

各海外研修の詳細は、国際センターに問い合わせてください。

本学が主催するプログラムの具体的な内容については、先端ナビの掲示等でお知らせします。過去の研修内容は、本学の公式ウェブサイト公開しています。

外部機関が主催するプログラムについても、国際センターにて案内することが可能です。

(1) 海外研修の単位修得について

海外研修の単位取得に関する詳細は、教務センターに問い合わせてください。

事前に教務センターに申請を行い、許可を得られた場合において、所定の要件を充たせば成績評価の対象となります。

科目名称	単位数	成績評価方法	対象
海外研修ⅠA	2単位	外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	①本学または本学と提携の大学が行う海外研修 ②個人で参加する海外研修
海外研修ⅠB	2単位	海外研修ⅠAを履修した者が外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅠC	2単位	海外研修ⅠBを履修した者が外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修Ⅱ	4単位	外国の大学等で語学研修等を1か月程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	

- 海外の大学等の同一機関で同一レベルの語学研修等を重複して行った場合、単位認定の対象になるのは一方のみです。
- 履修登録制限には含まれません。

(2) 単位認定の申請方法

- 「海外研修」の単位認定を希望する場合は、事前指導を受けてから研修先を決定してください。
- 海外研修を修了した者は、修了証明書の写し及び指定されたレポートを担当者に提出してください。
- 履修登録及び単位認定は帰国後当該年度に行います。ただし、派遣先大学からの成績発表時期により、履修登録及び単位認定が当該年度中に間に合わない場合、翌年度に行います。
- 前各項にかかわらず、本学が行う「海外研修」に関する指導は別途行います。

(3) 海外研修期間中の学籍

「留学」にはなりません。

キャリア・就職支援体制

本学では入学から卒業までの4年間を通してのキャリア支援を行っています。未知なる可能性を秘めているみなさんが、自身の目標や夢を達成していくために早い時期から日本が直面する将来の変化を知り、その上で「なりたい自分」や「やりたい仕事」について考えを巡らし、行動して欲しいと願っています。

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
キャリア教育 (正課)			【①キャリア教育】 秋学期: キャリアデザイン		
			【②インターンシップ(企業実習)プログラム】		
			将来について考える 【①キャリア教育】を通して早い時期から日本が直面する将来変化を知り、人生設計の中で働くことの意味を考えます。		
就職支援 (課外)		仕事を知る・体験する 【②インターンシップ(企業実習プログラム)】では実社会で実際に仕事を体験し、仕事観・職業観を培うとともに実社会で働く上で必要な知識やスキルに気づき、大学に戻ってから学びを深めて身に付けていきます。1年次から参加可です。プログラム以外の企業が実施するインターンシップ情報は、学内求人システム「Job KUAS」より検索することができます。			
		資格取得を目指す・スキル能力を向上する 各種検定試験合格のための【⑧資格取得支援講座】を多数開講。皆さんの将来に繋がる「キャリアづくり」をサポートしています。公務員(警察消防含む)を目指す方対象の【⑨公務員対策】もあります。			
			就職活動の対策をする 3年次から本格的に始まる就職活動に向けて全面的にバックアップしています。履歴書作成、筆記試験、面接などの対策講座だけでなく、みなさん一人ひとりの就職相談の場として個人面談も実施しています。蓄積された企業に関する豊富な情報も提供しているので企業選びにも是非活用してください。【③個人面談】【⑤就職支援行事】【⑥就職関連情報の提供】【⑦就職筆記試験対策講座】 2024年度は約300社の企業の人事ご担当者をお招きして【④学内合同企業研究会】を実施。各企業による事業内容だけでなく仕事内容についても話を聞く機会にもなり、目前に迫る職業選択に役立ちます。セミナーをきっかけに内定につながるケースもあります。		

- ① キャリア教育
2年次秋学期に卒業後の進路として自分の人生設計の中で働くことの意味を考えます。3・4年次のキャップストーンプロジェクトに向けて、基本的な知識とスキルを身に付けるだけでなく、京都先端科学大学の学生としての行動規範を身に付けることで自分自身のスキルアップを目指しましょう。
- ② インターンシップ（企業実習）プログラム
本書「第2章 大学共通 インターンシップ（企業実習）プログラム」をご参照下さい。
- ③ 個人面談（対面、オンラインでも実施しています）
就職活動や卒業後の進路に少しでも不安があればまず個人面談を利用しましょう。進路相談だけでなく、自己分析や自己PR、学生時代に取り組んだことを明確にして言語化することで、選考に必要な履歴書の完成も目指します。企業選択においては様々な業界・職種を知りながら、自分自身の希望や適性に照らして志望企業を決めていきます。また志望に応じた求人情報も案内しています。「Job KUAS」から予約をして、是非面談を活用してください。
- ④ 学内合同業界研究セミナー（主として3年次対象）
2024年度は約300社の企業に参加頂き、学内合同業界研究セミナーを実施しました。卒業生が在籍している企業はじめ、本学の学生を採用したいと考える企業が一堂に会し、業界や仕事の内容を紹介されました。興味がないと思っていた企業でも話を聞くことで視野が広がる良い機会ですので就職活動をする人は必ず参加してください。
- ⑤ 就職支援行事（主として3・4年次対象）
就職活動をスムーズにするため「①自分を知る、②業界、企業を知る、③選考に向けて準備する」のセミナー等を随時開催しています。（就職活動準備、自己分析、自己PR、履歴書、エントリーシート、志望動機、面接、グループディスカッション）
- ⑥ 就職関連情報の提供
学内求人システム「Job KUAS」で大学求人公開しています。このほか、学外での企業説明会、各種セミナーなどは「先端なび>就職ポータル」で紹介しています。就職活動に重要な情報のみが掲載されますので「Job KUAS」と「先端なび>就職ポータル」は毎日確認しましょう。
- ⑦ 就職筆記試験対策講座
選考時に実施される就職筆記試験（SPIやCAB/GAB）の勉強は欠かせません。年間を通して対策講座を実施していますので自分の実力を知り、知識習得に励みましょう。
- ⑧ 資格取得支援講座
マイクロソフトのMOSや秘書検定などの基本的な資格から、簿記会計や販売士、宅建、ファイナンシャルプランニングなど専門的な資格まで、各種講座をラインナップしています。
- ⑨ 公務員対策
外部機関の講座を大学価格で提供しています。自身に合った学習方法を選択し試験対策することができます。

キャリアディベロップメントセンター・キャリアマネジメント課

みなさんの就職活動や資格取得の支援をしているのが「キャリアマネジメント課」です。

《京都太秦キャンパス(西館1階)窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00	TEL:075-406-9260 E-Mail:career@kuas.ac.jp（両キャンパス共通）
-----	------------	---

《京都亀岡キャンパス(楠風館1階)窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00	TEL:0771-29-2260
-----	------------	------------------

いずれのキャンパスも、夏期冬期等の休業期間中は、上記窓口取扱時間が変更になる場合があります。

